（2018 年度）

専任教員の教育研究業績

広島女学院大学

目　　次

＜共通教育部門＞

1. 中田　美喜子　教授　・・・　1
2. 西口　理恵子　教授　・・・　2
3. 澤村　雅史　教授　・・・　2
4. 前田　美和子　准教授　・・・　4
5. 吉田　順子　准教授　・・・　6
6. 近藤　友子　特任准教授・・・　7
7. Daniel Hougham　助教　・・・　8
8. Timothy Wilson　助教　・・・　11

＜国際英語学科＞

1. 磯部　祐実子　准教授　・・・　13
2. 関谷　弘毅　准教授　・・・　13
3. 戸田　慧　准教授　・・・　16

＜日本文化学科＞

1. 佐藤　茂樹　教授　・・・　18
2. 植西　浩一　教授　・・・　18
3. 渡邊　ゆかり　教授　・・・　19
4. 足立　直子　准教授　・・・　20

＜生活デザイン学科＞

1. 細田　みぎわ　教授　・・・　22
2. 小林　文香　教授　・・・　22
3. 真木　利江　教授　・・・　23
4. 三木　幹子　教授　・・・　24
5. 田頭　紀和　教授　・・・　25
6. 福田　道宏　准教授　・・・　25
7. 熊田　亜矢子　准教授　・・・　27
8. 楢﨑　久美子　准教授　・・・　28
9. 伊藤　千尋　専任講師　・・・　29

＜管理栄養学科＞

1. 石長　孝二郎　教授　・・・　31
2. 下岡　里英　教授　・・・　32
3. 渡部　佳美　教授　・・・　33
4. 市川　知美　准教授　・・・　35
5. 佐藤　努　准教授　・・・　37
6. 土谷　佳弘　准教授　・・・　37
7. 妻木　陽子　准教授　・・・　38
8. 野村　希代子　専任講師　・・・　40
9. 野村　知未　専任講師　・・・　41

＜児童教育学科＞

1. 神野　正喜　教授　・・・　42
2. 桐木　建始　教授　・・・　42
3. 中村　勝美　教授　・・・　43
4. 戸田　浩暢　教授　・・・　44
5. 山下　京子　教授　・・・　44
6. 加藤　美帆　准教授　・・・　45
7. 森保　尚美　准教授　・・・　46
8. 村上　智子　准教授　・・・　47
9. 大橋　隆広　准教授　・・・　47

2018 年度　教育研究業績

人文学部・人間生活学部　共通教育部門　　**中田　美喜子**				
著書､学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） １. コンピュータゲーム時における生理心理学的研究　－心拍数変動と攻撃性の関連について―	共	平成 30 年 12 月	広島女学院大学 人間生活学部紀要 第 6 号	コンピュータゲームにおいて攻撃性の高低群別に心拍数の変動があるかについて検討を行った。 著者：中田美喜子 、久保みのり **【関連授業科目：卒論ゼミ】**
２. SNS を利用した大学生のコミュニケーションについて－2014 年と現在との比較から－	単	平成 31 年 3 月	広島女学院大学 国際教養学部紀要 第 6 号	大学生における新しいコミュニケーションツールとして SNS が利用されている。他人との対人関係について、かかわりを避けている大学生において自己隠蔽度の高低群における差について 2014 年度の調査との比較を実施した。
（教育実践記録等） １. 情報リテラシーにおける能力別クラスわけによる学習効果	単	平成 30 年 6 月	大学教育学会第 40 回大会	情報リテラシー科目における能力別クラスわけは学習効果があるのかを検討した。その結果、タイプ測定においても知識においても学習効果があることが認められた。 **【関連授業科目：情報リテラシー】**
２. 専門科目におけるアクティブラーニングの学習効果について―「情報セキュリティ」科目における場合－	単	平成 30 年 7 月	一般社団法人教育システム情報学会中国支部･第 18 回研究発表会	専門科目である「情報セキュリティ」科目においてアクティブラーニングを実施し、その学習効果について中間試験と期末試験の結果を比較して検討した。その結果、アクティブラーニングを実施したことで期末試験結果が上昇していることが示された。 **【関連授業科目：情報セキュリティ】**
３. 学習環境を保証する工夫について―教員による復習ビデオサイトの作成―	単	平成 30 年 9 月	平成 30 年度　教育改革 ICT 戦略大会	講義をビデオ撮影し、YouTube にアップし復習用ビデオサイトとして限定公開している。文科系の教員においても簡単に撮影・アップロードで作成できるため、欠席学生や理解度を深めるための復習として利用できる講義のビデオサイトの作成を実施し報告した。 **【関連授業科目：すべての科目】**
（その他） １. 広島県警察サイバー防犯ボランティア　委嘱	単	平成 30 年 4 月 1 日	広島県警	広島県における小中学校のサイバー犯罪に関する啓蒙活動。ボランティア学生の募集などを行い、啓蒙に努める。

２． 2018 年度 JSiSE 学生研究発表会（中国地区）審査委員 ３．HiBis AI・IoT 研究部会「HiBiS IT 勉強会「DLLAB 広島キックオフ」」開催	共 共	平成 30 年 3 月 平成 31 年 2 月	一般社団法人教育システム情報学会中国支部 HiBis 協議会	**【関連授業科目：情報倫理・情報リテラシー】** 学生発表会の受賞論文審査委員 **【関連授業科目：卒論ゼミ】** HiBis 協議会の部会における参加と勉強会開催協力 **【関連授業科目：卒論ゼミ】**

人文学部・人間生活学部　共通教育部門　　**西口　理恵子**

著書､学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） １．Lesson Plan for ‘Development of Regional Resources’: Focusing on Metal Resources	単	平成 31 年 3 月	広島女学院大学論集,広島女学院大学国際教養学部紀要第 6 号	国際教養学科では、地域に存在する資源と関わりの深い授業として、「地域資源管理論」が始まり、改組により「地域資源と利用」として生活デザイン学科に提供されている。オムニバス形式では、著者は金属資源に関しての授業を展開している。生活デザイン学科という中で、学生が興味をもち、満足する授業が必要であると考える。本論文では、実習や実験を伴わない学生中心の授業展開と、それによる学生の反応をもとに、今後の授業への改善案を提案するための考察を行った。 **【関連授業科目：地域資源と利用（地域資源管理論）】**
（教育実践記録等） 特記事項なし				
（その他） 特記事項なし				

人文学部・人間生活学部　共通教育部門　　**澤村　雅史**

著書､学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				

（学術論文等） １.「キリスト教主義学校における平和教育のあり方をめぐって～片隅で思うこと」	単	平成 31 年 3 月	『関西学院大学キリスト教と文化研究』第 20 号（6 頁）	本学と関西学院大学との合同授業「ヒロシマ」の実践報告のほか、本学での平和教育の歴史、現状、課題について行った発題（2018 年 6 月と 10 月）を、紀要掲載にあたって論文形式にまとめた。（pp.87～92） **【関連授業科目:「ヒロシマ」(「ヒロシマと平和」)、キリスト教と社会、キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ】**
（教育実践記録等） ＜学会発表＞ １.「広島女学院大学および関西学院大学における平和教育 ―正課・非正課の実践を通して―」〔招待あり〕	単	平成 30 年 6 月	関西学院大学キリスト教と文化研究センター研究プロジェクト「キリスト教主義教育の展開ーキリスト教主義学校における平和教育のあり方をめぐってー」第 6 回研究会	本学と関西学院大学との合同授業「ヒロシマ」の実践報告のほか、本学での平和教育の歴史、現状、課題について発題を行った。 **【関連授業科目:「ヒロシマ」(「ヒロシマと平和」)、キリスト教と社会、キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ】**
２. "The Christology in Matthew 28:16–20 -The Origin, Purpose and Effect of the Triadic Formula-	単	平成 30 年 9 月	ASIA -PACIFIC EARLY CHRISTIANITY STUDIES SOCIETY 12th Annual Conference	従来はキリスト教とユダヤ教の分水嶺として論じられてきた「キリスト論」について、マタイ福音書に関しては、第二神殿期の「二神的一神教」思想から説明可能であり、また、後のキリスト教の根本教義である三位一体論の起点とも考えられてきたマタイ 28:19b の「三称定式」についても、同福音書の神学的焦点が「神の子」称号にあることを示しているとともに、「二神的一神教」の枠組みから説明可能であることを論証した。昨年 9 月に日本新約学会で行った発表を、質疑応答をもとに大幅に修正し、英語での発表を行った。
３. “ἀνομία in Matthew: an exegetical analysis of its subject”	単	平成 30 年 10 月	SNTS APLC in Taiwan	マタイ福音書の重要鍵語のひとつ ἀνομία について釈義的に分析し、その指示内容を同定するとともに、マタイ福音書全体の執筆意図を探る手掛かりとした。
＜講演等＞ １. “Richness, Happiness and Quality of Life from the perspective of	単	平成 30 年 8 月	East Asia Student Encounter 2018	関西学院大学とインドネシア サチャ・ワカナ・キリスト教大学の学生による平和学習セミナーで基調講演を行った。 **【関連授業科目:「ヒロシマ」(「ヒロシマと平和」)、キリスト教と社会、キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ】**

HIROSHIMA” 〔招待あり〕 2．宗教間トークセッション 〔招待あり〕	共	平成 30 年 12 月	広島仏教学院 宗教概論公開講座	浄土真宗との共通点、相違点、対話の接点について、講義と対談形式にて。 **【関連授業科目：宗教学Ⅰ（地域と宗教)、宗教学Ⅱ、キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ】**
（その他） 1．「キリスト教学校につながる喜び ― 多様性の尊重と共生をめざして ―」 〔招待あり〕	単	平成 30 年 8 月	第 46 回鎮西学院高等学校 教師夏期修養会	学校におけるキリスト教主義の現状と課題について、発題を行った。 **【関連授業科目：「ヒロシマ」(「ヒロシマと平和」)、キリスト教と社会、キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ】**
2．「『キリスト教主義学校における平和教育のあり方をめぐって』～片隅で思うこと」 〔招待あり〕	単	平成 30 年 10 月	関西学院大学キリスト教と文化研究センター研究プロジェクト「キリスト教主義教育の展開ーキリスト教主義学校における平和教育のあり方をめぐってー」公開シンポジウム	これまで同プロジェクトで発題を行った研究者を集めてのパネル・ディスカッションに参加、発題を行い、コメントを述べた。 **【関連授業科目：「ヒロシマ」(「ヒロシマと平和」)、キリスト教と社会、キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ】**
人文学部・人間生活学部　共通教育部門　**前田　美和子**				
著書､学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） 1．虐待を受けた子どものスピリチュアルペインについての一考察	単	平成 31 年 3 月	広島女学院大学 幼児教育心理学科紀要 第 5 号 （7 頁）	わが国においては、緩和ケアの領域で早くからスピリチュアルペインは認められ、中でも村田久行が開発した村田理論は支持されている。一方で、疾病をともなわない子どものスピリチュアルペインについての研究は見られない。 そこで、試験的に村田理論をもとに虐待を受けた子どもにスピリチュアルペインが見られるか考察を試みた。その結果、虐待を受けた子どももスピリチュアルペインを感じている可能性が示唆された。(pp.31～37)

２. 貧困の子どもがスピリチュアルペインを感じ得る可能性について	単	平成 31 年3 月	富坂キリスト教センター紀要 第 9 号 （12 頁）	生きることに対して困難な状況にある子どもたちは、終末期の患者にように自らの死の接近を感じているわけではないが、他者との関係、特に家族や学校という拠り所になる関係との間に亀裂が生じている子も多い。そしてその関係不全ゆえに大きな孤独感を感じていたり、自己のあり方を肯定できなかったり、生に対して意味や価値を見出すことが出来ないなどといったスピリチュアルペインを抱えている可能性が高いと考えられる。本稿では、特に相対的貧困の子どもがスピリチュアルペインを感じる可能性について検討した。(pp.135～146)
３. 非認知能力を育てるキリスト教主義教育の可能性について（第3 報）	共	平成 31 年3 月	広島女学院大学 人間生活学部紀要 第 6 号 （9 頁）	前田らが 2017 年、2018 年に行った「非認知能力を育てるキリスト教主義教育の可能性について」、「非認知能力を育てるキリスト教主義教育の可能性について（第 2 報）」の継続研究である。今回も2017 年度春学期期間中に行われた「キリスト教の時間」で提出されたコメントカードにテキストマイニングソフトによる分析を行い比較した。更に今回は 2018 年前期開講授業「キリスト教学入門Ⅰ」受講者に対してアンケートを行った。 その結果、青年期には自己省察を通して人格を形成するのであるが、同時期に本学のようなキリスト教主義教育に触れることで自己を認識し、社会性を獲得できるということが示唆された。 （共同研究につき抽出不可：キリスト教主義教育について執筆） 著者：前田美和子 、加藤美帆、楢﨑久美子
（教育実践記録等） 特記事項なし				
（その他） ＜学会発表＞ １. 子どもとスピリチュアルペイン―子どもの貧困問題を中心に	単	平成 30 年9 月	2018 年（第11 回）日本スピリチュアルケア学会学術大会	スピリチュアリティはすべての人間にかかわる事柄である。しかしながら、我が国におけるスピリチュアルケアやスピリチュアルペインにかかわる研究の多くは、実際には医療分野が中心となって進められてきており、その必要性が説かれながらも、教育現場や子どもに対してのスピリチュアルペインについての考察は残念ながら不十分だと言わざるを得ない。そこで疾病をもたない子ども、そのうち特に我が国における相対的貧困の子どもに焦点をあて、それらの子どものスピリチュアルペインについて考察した。
＜講演＞ １. 子どもがスピリチュアルペインを感じるとき〔招待〕	単	平成 30 年6 月	2018 西南女学院大学短期大学部保育公開講	1999 年に世界保健機関（WHO）が健康の定義を見直し、Spiritual を加えようという動きを見せたことを発端に、我が国において看護学、福祉学、宗教学などが牽引してスピリチュアルケアやスピ

			演会	リチュアルペインの研究が進められてきた。いまだスピリチュアルペインの明確な定義は定まってはいないものの、およそその人を成り立たせる大切な関係やつながりとの断絶時に起こり得る痛みであると考えられる。本講演では、子どもの言葉、様子などから、子どもたちがスピリチュアルペインを抱えたときに見せるサイン等について示した。
２. 我らは神と共に働くものなり―広島女学院大学のキリスト教主義教育における多様性と協働〔招待〕	共	平成 30 年 9 月	キリスト教学校教育同盟関西地区協議会第 62 回大学部会研究集会	前田らが 2016 年に行った「キリスト教主義大学に在籍する学生のキリスト教保育に対する意識調査」、2017 年、2018 年に行った「非認知能力を育てるキリスト教主義教育の可能性について」、「非認知能力を育てるキリスト教主義教育の可能性について（第 2 報）」、2018 年 6 月に「キリスト教学入門Ⅰ」の授業時におこなったアンケート結果から、キリスト教主義教育がそこで学ぶ学生たちにとって、これからを生きる人材育成のために真に有用であると示唆された。これらの共同研究はクリスチャン、ノンクリスチャンをあわせたメンバーで行われることにより、キリスト教主義教育が人類普遍的に重視される価値の側面があることなど、キリスト教主義教育の広いとらえ方を明らかにするものである。 発表者：楢﨑久美子、前田美和子

国際教養学部　国際教養学科　　吉田　順子

著書、学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） 特記事項なし				
（教育実践記録等） 特記事項なし				
（その他） １.「自己愛人格傾向が起業意向におよぼす影響１－自信過剰を通じた間接効果に着目して－」	共	平成 30 年 9 月	産業・組織心理学会第 34 回大会ポスター発表 発表論文集 49-50 頁	本研究では、自信過剰を、overprecision、overplacement、overestimation の 3 つの視点から測定し、自己愛人格傾向がそれぞれを規定しその結果として起業意向が高まるかどうか、さらに、社会環境が不確実であると認識する場合、起業意向が高まるかどうかを検討した。大学生対象の調査データ(有効回答者 411 名)の自己愛人格傾向項目から「誇大主導」「注目欲求」「身体賞賛」の 3 因子が抽出され、起業意向については「起業目標」「起業魅力」の 2 因子が抽出された。自己愛人格

				傾向のいずれかの因子から、自信過剰のいずれかを通じて起業目標、もしくは起業魅力への影響について媒介分析を行ったところ、誇大主導因子はoverprecisionを高め、その結果として起業目標が高まりやすいという間接効果が示された。次に、社会環境不確実性の高さごとに同様の媒介分析を行ったところ、それの高い場合に有意な間接効果が認められ、不確実性が低いと思う場合には有意な間接効果は認められなかった。（共同研究につき抽出不可） 共同発表者：林ショウ、吉田順子、相馬敏彦
２.「自己愛人格傾向が自信過剰を通じて起業意向におよぼす影響 2 - 困難な課題に対する自信過剰と容易な課題に対する自信過剰の違い - 」	共	平成 30 年 9 月	産業・組織心理学会第34回大会ポスター発表 発表論文集 51-52 頁	林・吉田・相馬 (2018)では、自信過剰が起業意向を高めるプロセスに着目し、その自信過剰を自己愛人格傾向が規定する可能性を示した。本研究では、課題の難易度別に自信過剰を測定し、自己愛人格傾向から起業意向への影響がどのように異なるのかを検討した。なお、測定の都合上、自信過剰の 3 つの視点のうち overprecision(以下：OP)のみを用いて検証を進めた。自己愛人格傾向の 3 因子（誇大主導、注目欲求、身体賞賛）が、OP を通じて起業意向の 2 因子（起業目標、起業魅力）に及ぼす影響を媒介分析により検証した結果、誇大主導が難 OP を、身体賞賛が易 OP を、それぞれ通じて起業目標を高める媒介効果が確認され、プロセスが課題の難易度によって異なることが示された。誇大主導は、自分は他者より優れた能力を持ち、リーダーシップを有するといった項目からなるため、困難な課題であっても起業目標を高めるが、身体賞賛は、表面的な自信過剰であるため、容易な場面での自信過剰は高まるものの、困難な課題では高まらず、結果として起業目標にもつながらなかったと考えられる。 （共同研究につき抽出不可） 共同発表者：吉田順子、林ショウ、相馬敏彦

人文学部・人間生活学部　共通教育部門　**近藤　友子**

著書､学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） １.「公共図書館の障がい者サービスにおける資料の配送について考える―郵送・宅配サービス	単	平成 30 年 11 月	『情報学』Journal of Informatics 15 巻 2 号（10 頁）	公共図書館の障がい者サービスにおける資料提供に関する点に着目し、その意義や役割、課題について考察を行った。障がい者サービスでは点字や音声の資料を郵送等により貸出して利用に供している。資料の配送に関わる郵便制度や宅配サービスについて整理し、その課題を考えていった。事

を中心に―」				例等も参考にして今日の障がい者サービスにおける 資料の配送、宅配の在り方や意義、役割について考えた。（pp. 191～200） **【関連授業科目：図書館サービス概論、図書館制度・経営論、図書館サービス特論】**
２.「活字出版物のバリアフリー:情報技術の進展と新しい読書メディア」	単	平成 31 年 3 月	『出版研究』第 49 号（8 頁）	情報技術の進展における活字出版物のあり方について、活字資料の利用に困難をもつ障がいを捉えて考察を行った。今日では活字の出版物と情報技術との関わりは深くなっており、大活字本、LL ブック、録音資料、マルチメディア DAISY などの様々な読書メディアが存在している。活字出版物のバリアフリーについて電子書籍、電子ジャーナルの動向や、読書困難の障がいを持つ人への読書の障壁を取り除く努力などについて考えた。（pp. 137～144） **【関連授業科目：図書館概論、図書館サービス概論、図書館情報資源概論、図書館情報技術論、情報サービス論、図書・図書館史、学校図書館メディアの構成、学校経営と学校図書館】**
（教育実践記録等） １.「読書と大学図書館」	単	平成 31 年 2 月	広島女学院大学 人間生活学部紀要 第 6 号	大学図書館は、大学における学術情報基盤の中心として知的自由を支えていくための「学習的機能」と「研究的機能」を持つ。また情報化の進展に伴い、データベース等の講習会や機器操作の指導、学術情報の集積や発信を担う学術情報ネットワークとしての役割も期待されており、読書ニーズをつかむ必要がある。本稿では『2018 年版 読書世論調査』を参考に読書について考え、年代別、男女別などの読書率についての考察を行った。（pp.69～73） **【関連授業科目：図書館概論、図書館サービス概論、学習指導と学校図書館、読書と豊かな人間性】**
（その他） １.ボランティア講習会講師	単	平成 30 年 9 月 平成 31 年 3 月		対面読書ボランティア講習会 於：福知山市立図書館中央館 日時：平成 30 年 9 月 6 日 13：30～15：30 （同上） 日時：平成 31 年 3 月 22 日 13：30～15：30

人文学部・人間生活学部　共通教育部門　**Daniel Hougham**

著書､学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				

（学術論文等） １．Facilitating Japanese University Students' Autonomous Learning In and Beyond the English Classroom (査読付)	単	平成 31 年 2 月	ndependent Learning Association 2018 Conference Proceedings. ILA: Kobe	This study examined the effectiveness of a variety of learning activities including extensive reading, using word cards, reflecting, and online testing with 36 Japanese university students. Data from questionnaires as well as vocabulary quiz and listening test scores showed that: (1) most students perceived the activities were helpful and felt they had a positive effect on various aspects of their autonomous learning, such as increasing motivation, and (2) students evaluated their improvement in English proficiency positively. It was clear that the activities have great potential for improving English proficiency and facilitating autonomous learning.
２．Active Learning and Learner Development with Quizlet: An Action Research Project	単	平成 31 年 3 月	広島女学院大学 国際教養学部紀要 第 6 号 (21 頁)	Taking an action research approach, this study looks at students' perceptions of using Quizlet, as well as their actual use of Quizlet activities. Data from various sources including questionnaires, Quizlet usage logs, and group interviews confirmed that Quizlet Live helps students develop positive feelings towards learning English. The data also revealed that students think Match and Flashcards are the most useful Quizlet activities, and making your own study sets and using them actively is the most advisable course of action. (pp. 1～21)
（教育実践記録等） 特記事項なし				
（その他） ＜学会発表＞ １．Online Quizzing/Testing with Immediate Feedback through Quizlet, Google, and Flubaroo Add-on	単	平成 30 年 6 月	JALTCALL 2018 Conference, Nagoya	In this presentation, results of a questionnaire survey showed that most students (N=36) perceived the activities (Quizlet and Google Forms quizzes with immediate feedback) helpful or very helpful and having a positive effect on various aspects of their autonomous learning, such as increasing their motivation and out-of-class study time. Results showed that most learners appreciate receiving immediate feedback through digital tools and many of them find Quizlet easy to use, though they need some basic technical and strategic training to learn how to use it well.
２．Online	単	平成 30 年	ILA 2018	In this presentation (of the same title as above),

Quizzing with Immediate feedback through Quizlet, Google, and Flubaroo		9 月	Conference, Kobe	the scope was broadened by including more results and discussion of other learner training activities that had been conducted: in particular, "guessing from context" strategy training through extensive reading (ER), and the use of goal/plan/reflection/question sheets. Results showed that, although students found it helpful to do ER and use goal/plan/reflection/question sheets, there responses to these items were less positive compared with their responses to other items. Possible reasons for these differences are discussed in the research paper listed above (forthcoming in ILA 2018 Conference Proceedings).
＜講演等＞				
１. 新渡戸稲造と妻メリー:文化の懸け橋のパイオニア［Inazo & Mary Nitobe: Pioneers of Kakehashi Across Cultures	単	平成 30 年 11 月	広島女学院大学木曜日チャペル	This short presentation (delivered mostly in Japanese) introduced Inazo and Mary Nitobe, two of the foremost pioneers of *kakehashi* who helped introduce Christian ideas to Japan and Japanese ethics to the world, thus serving as a bridge between Japan and the West. It was emphasized that together they made a great contribution, particularly to the cause of women's education in Japan and to the promotion of friendly relations between nations.
＜報告書等＞				
１. JALTCALL 2018: Reflections on the Learner Development SIG Forum	共	平成 30 年 11 月	Learning Learning, 25(2)(2 頁)	Conference Forum Report (pp.68～69)
２. Reflections on ILA 2018〔招待有〕	単	平成 30 年 11 月	Learning Learning, 25(2)(3 頁)	Conference Report (pp. 74～76)
３. Collaborative Reflections on ILA 2018 Conference	共	平成 31 年 1 月	ILA 2018 Conference Proceedings (10 頁)	Conference Report
＜社会活動等＞				1. Editor for Learning Learning, the newsletter of the JALT Learner Development Special Interest Group 2. Editor for the Special Issue of the Journal of Research and Pedagogy of Otemae University, Institute of International Education: Joint Symposium Proceedings in collaboration with Hiroshima JALT 3. Reviewer for the ILA 2018 Conference Proceedings

＜その他＞ Minimum Essentials 1 & 2	共		広島女学院大学 基礎英語教科書	Textbook for Hiroshima Jogakuin University Kiso Eigo classes (Editors) Timothy Wilson, Isobe Yumiko (Authors) Jamie Szuba, Paul Spicer, Timothy Wilson, Daniel Hougham

人文学部・人間生活学部　共通教育部門　　**Timothy Wilson**

著書、学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） １．Gender Differences in the Use of Apology Strategies in English by Japanese University EFL Learners.	単	平成 30 年 5 月	広島女学院大学国際教養学部紀要 第 5 号	The aim of this study is to investigate the strategies used by EFL learners of English of the speech act of apology、and to find out how the strategies used differ between male and female learners. A Discourse Completion test (DCT) containing 8 apology scenarios was conducted among 100 university students (50 males and 50 females), and it was found that Japanese EFL learners lack knowledge and communicative competence for most of the strategies of apology in both genders but there were no significant differences in the strategies used between genders.) Field: Sociolinguistics, Pragmatics, Language learning.
２．A Study of Intensifiers used in Apologies Between British and American Native English Speakers, and How This Affects Japanese English Learners' Pragmatic Development.	単	平成 31 年 3 月	大学英語教育学会中国・四国支部研究紀要 (JACET)	謝罪発話行為は語用論の観点から、対話者とのスムーズな関係を保つための大切な発話行為のひとつとされている。一般的に、日本人学習者は文脈に応じた自然な英語の語用論的知識が欠けているため、日本人学習者への語用論的指導は英語教育に欠かせない。本稿では、アメリカ人とイギリス人の間で、謝罪発話行為に使われる強意語に注目し、英語母語話者がどのようにそれらの使用を認識しているかについて考察していく。データ収集では 25 名のイギリス人教師と 25 名のアメリカ人教師を対象に謝罪発話行為の談話完成テストを行い、インタビュー調査を実施した。結果において統計的な差異は確認できなかったが、イギリス人教師はアメリカ人教師に比べ *terribly* や *deeply* をより多く謝罪発話行為とともに使用し、それらは発話内行為のためであることが確認できた。英語母語話者教師による英語指導には、このように日常使われている自然な英語を学ぶことができる利点がある。

（教育実践記録等） １. ポスター発表	単	平成 30 年 8 月 28-30 日（仙台） 平成 30 年 11 月 24-26 日（静岡）	The 57th JACET International Convention the 44th Annual International Conference on Language Teaching and Learning (JALT)	A Study of Intensifiers used in Apologies Between British and American Native English Speakers, and How This Affects Japanese English Language Learners' Pragmatic Development. CEFR-Based Curriculum at a Private University in Japan.
（その他） １. Textbook for Hiroshima Jogakuin University Kiso Eigo classes ２. JALT Officer ３. Community Event	Co-author	平成 31 年 3 月	広島女学院大学 基礎英語 教科書	1. Minimum Essentials 1 (ME1). New Edition. Timothy Wilson, Isobe Yumiko (Editors), Jamie Szuba, Paul Spicer, Timothy Wilson (Authors), Hiroshima Jogakuin University, March, 2018. 2. Minimum Essentials 2 (ME2). New Edition. Timothy Wilson, Isobe Yumiko (Editors), Jamie Szuba, Paul Spicer, Timothy Wilson (Authors), Hiroshima Jogakuin University, March, 2018. (Membership Chair) for Hiroshima chapter of the Japanese Association of Language Teachers (JALT), 2014 - 2019. Organiser and judge for the 10th Hiroshima Inter-University Scrabble Competition, Hiroshima International University (HIU), December 9th, 2018. Five HJU students were trained and participated in this community event.

2018年度　教育研究業績

<table>
<tr><td colspan="5">人文学部　国際英語学科　　**磯部　祐実子**</td></tr>
<tr><td>著書､学術論文等の名称</td><td>単著共著の別</td><td>発行年月</td><td>出版社又は発行雑誌等の名称</td><td>概　要</td></tr>
<tr><td>（著書）
特記事項なし</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>（学術論文等）
１.「大学生の英語運用能力を規定する要因の習熟度別検討―効果的な学習ストラテジーは習熟度によって異なるか―」</td><td>共</td><td>平成 31 年 3 月</td><td>広島女学院大学大学院言語文化学論叢
第 22 号
（13 頁）</td><td>広島女学院大学一年次に在籍する学生 280 名を対象に、学修意欲、学修方法、学修時間に関する統計調査を行い、実態を明らかにするとともに、TOEIC のスコアとの相関関係を考察する。（pp.19～31）
共著者：関谷弘毅、磯部祐実子</td></tr>
<tr><td>（教育実践記録等）
特記事項なし</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>（その他）
１.「英米文学から学ぶこと」

２.「イギリス文学とわたしたち」</td><td>単

単</td><td>平成 30 年 6 月

平成 30 年 11 月</td><td>平成 30 年度早稲田アカデミー第 2 回

広島女学院大学国際教養学会</td><td>早稲田地区に居住する一般市民を対象に、イギリス文学、特にウィリアム・シェイクスピアとバーナード・ショーの作品について英語の原文を使って、英語特有の表現や日本語の翻訳には表されない隠れた意味を解説する。合わせて、原書で読む楽しさを、また現代社会において文学作品を読む意義について講演を行う。
現代の新しい価値観や視点を持つ「わたしたち」が、どのようにイギリス文学を読み、楽しむことができるかについて講演する。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="5">人文学部　国際英語学科　　**関谷　弘毅**</td></tr>
<tr><td>著書, 学術論文等の名称</td><td>単著共著の別</td><td>発行年月</td><td>出版社又は発行雑誌等の名称</td><td>概　要</td></tr>
<tr><td>（著書）
特記事項なし</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>（学術論文等）
１.大学の英語教育学専門科目におけるチーム基盤型学習（TBL）</td><td>単</td><td>平成 31 年 3 月</td><td>『全国英語教育学会紀要』, 30
（16 頁）</td><td>本研究は、大学の英語教育学専門科目のチーム基盤型学習（TBL）型授業において、フリーライダーの問題を克服し、学習者の概念理解と学習意欲を改善することを目的とした。その結果、TBL 型授業よ</td></tr>
</table>

の導入とその改善－グループワークにおける役割付与の効果－ （査読付）				って概念理解が促進され、役割を付与するとさらに促進効果が高くなることが示唆された。質的分析から「TBL 型授業におけるグループワーク機能の関連図 ver. 2」を作成した。また、役割を付与することによってフリーライダーが出現しにくくなることが示唆された。（pp.319～334）
2．チーム基盤型学習（TBL）が知識獲得と概念理解に与える影響－英語学の授業実践から－ （査読付）	単	平成 31 年 3 月	『中国地区英語教育学会研究紀要』 第 49 号 （11 頁）	チーム基盤型学習（TBL）を取り入れて大学の英語学の授業を実施し、前年度の講義型授業と比較して知識獲得と概念理解に与える影響を検討した。分析の結果、TBL に取り組むことによって知識獲得と概念理解が促されることが示された。具体的には、調音器官、子音図、母音図など、比較的深い思考を必要としない知識問題に大きな促進効果が見られた。一定の思考を必要とする、専門用語に関する正しい説明文を選択する問題では次に大きな促進効果が見られた。（pp.43～53）
3．英語学習における「井の中の蛙効果」の探索的検討－クラスの習熟度とクラス内の位置が動機づけと学習量に与える影響－ （査読付）	単	平成 31 年 3 月	『大学英語教育学会中国・四国支部紀要』 第 16 号 （17 頁）	本研究は日本の大学英語教育における「井の中の蛙効果」、(個人の能力が同じであっても、学力の高い[低い] 学校やクラスに属している生徒ほど学業的自己概念［自尊感情］が低い［高い］こと）を検討した。その結果、英語の専門志向性の高い学生を対象とした習熟度別クラス編成でははっきりとした「井の中の蛙効果」は見られなかった。一方で英語の専門志向性の低い学生を対象とした習熟度別クラス編成では動機づけに「井の中の蛙効果」が見られた。（pp.67～83）
4．大学生の英語運用能力を規定する要因の習熟度別検討－効果的な学習ストラテジーは習熟度によって異なるか－	共	平成 31 年 3 月	広島女学院大学大学院言語文化論叢 第 22 号 （13 頁）	本研究は、学習ストラテジーの使用、動機づけの強さ、学習量という変数に着目し、広島女学院大学における 2017 年度の全学英語教育の状況を把握し、どのような特徴を持つ学生が英語力を伸ばしているかということをクラスの習熟度高低別に検討した。その結果、習熟度低群においては学習ストラテジーのうち「補償」が英語力を規定する要因となる傾向が見られた。一方で、習熟度の高い学習者にとっては、学習ストラテジーのうち、「記憶・認知」が英語力を規定する要因となっていることが明らかとなった。（pp.19～31） （著者：関谷弘毅・磯部祐実子）
（教育実践記録等） 特記事項なし				
（その他） ＜学会発表＞ 1．Learners' Beliefs and Learning Strategies for Second and	単独	平成 30 年 6 月	日本「アジア英語」学第 43 回全国大会	The two purposes of this study were to: (1) compare the beliefs and learning strategies of students at Shanghai Japanese High School regarding second and foreign languages and (2) identify the factors that determined the learning

Foreign Languages at Shanghai Japanese High School				strategies used for foreign language learning. The results showed that the communicative contemporary view and the traditional view for Chinese language learning, and the communicative contemporary view for English language learning were significant and strong predictors of learners' uses of learning strategies for English learning.
２.チーム基盤型学習（TBL）が知識獲得,理解深化,表現力養成に与える影響－英語学の授業実践から－	単独	平成 30 年 6 月	第 49 回中国地区英語教育学会研究発表会	本研究は、大学の英語学の専門科目において、 チーム基盤型学習（TBL）を取り入れて授業を実施し、知識獲得、理解深化、表現力養成に与える影響を、前年度に同科目を講義形式で行った場合と比較検討した。その結果、TBL を取り入れた授業は、知識獲得、理解深化、表現力養成に好影響を与える傾向が示された。
３.英語学習における動機づけと学習量に与える「井の中の蛙効果」の検討 －所属クラスの習熟度と所属クラス内での位置づけのどちらの影響が大きいのか－	単独	平成 30 年 6 月	2018 年度 JACET 中国・四国支部春季研究大会	本研究は日本の大学英語教育における「井の中の蛙効果」、(個人の能力が同じであっても、学力の高い[低い] 学校やクラスに属している生徒ほど学業的自己概念［自尊感情］が低い［高い］こと）を検討した。その結果、英語の専門志向性の高い学生を対象とした習熟度別クラス編成でははっきりとした「井の中の蛙効果」は見られなかった。一方で英語の専門志向性の低い学生を対象とした習熟度別クラス編成では動機づけに「井の中の蛙効果」が見られた。
４． ESP コーパス構築からのデジタル教材作成とその効果	共同	平成 30 年 8 月	JACET the 56th International Convention	本研究は、ESP (English for Specific Purposes）教育における語彙学習を目的として作成したコーパス構築からのデジタル教材作成、およびその効果について検討した。学習対象語彙のソースとして、アメリカ所在動物病院協力のもと入手した医療カルテ 190 部を基盤とし、動物医療コーパスを構築した。それをもとにして学習システムを作り、紙教材のみでの学習、e-learning での学習、e-learning & 画像での学習の効果を比較した。その結果、テスト得点、動機づけの 2 つの因子において口語作用が見られ、e-learning での学習を行ったグループのほうが伸びがよいことが示された。 （発表者：大橋由紀子・片桐徳昭・関谷弘毅 ・佐藤健）
５.チーム基盤型学習 （TBL）における役割付与が概念理解と学習意欲に与える影響 －英語教	単独	平成 30 年 8 月	全国英語教育学会第 44 回京都研究大会	本研究は、チーム基盤型学習委（TBL）が概念理解と学習意欲に与える影響及びそのプロセスを再確認するとともに、グループ活動中に各メンバーに司会進行役、第一発言者、第二発言者などの役割を与えることによって、「協力しない他者」による好ましくない影響を軽減できるかどうかを検討した。テ

育学専門科目の授業実践から－				スト得点の検討及び質的分析の結果、TBL の概念理解に与える効果が再現され、さらにグループ活動中にメンバーに役割を与えると概念理解がいっそう促進されることが示された。
６．The Motivational Effects Facilitated by ESP Digital Materials Integrated with an E-learning System	共同	平成 30 年12 月	The 8th Centre for Language Studies International Conference	This study examined how vocabulary materials affected ESP learners' motivation and proficiency. The authors compared three groups of ESP learners by providing them with three types of vocabulary materials in the veterinary medicine. The authors selected the vocabulary items from an ESP corpus that they compiled from 180 veterinary medical charts. The participants in three groups learned the same set of ESP vocabulary items from the veterinary medical chart corpus based on; (a) paper-based materials; (b) online e-learning materials using Quizlet; and (c) e-learning materials integrated with digital video materials. Measuring the results of the pre- and post- vocabulary tests and the motivational factors of the three groups revealed that the learning gains and several motivational factors of both the e-learning users and e-learning with digital materials were significantly higher than those with paper-based ESP materials. (Presenters: Yukiko Ohashi, Noriaki Katagiri, Koki Sekitani, and Takeshi Sato)

人文学部　国際英語学科　**戸田　慧**

著書､学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） 1．電気仕掛けのプロメテウス―アーネスト･ヘミングウェイの『日はまた昇る』における照明表象―（査読付）	単	平成 30 年7 月	中・四国アメリカ文学研究 54 号（中・四国アメリカ文学会） （10 頁）	ヘミングウェイの初期代表作である *The Sun Also Rises* におけるランプ、ガス灯、アーク灯、そして電灯という照明の表象に焦点を当て､パリからスペインへ移動する物語と､そこで描かれる照明の変化が､第一次世界大戦を経たロスト・ジェネレーションの主人公 Jake の価値観、宗教観をどのように表しているのかについて論じた。（pp. 1～10） **【関連授業科目：アメリカ文学史、アメリカの文化と歴史】**

（教育実践記録等） 特記事項なし				
（その他） 特記事項なし				

2018年度　教育研究業績

人文学部　日本文化学科　**佐藤　茂樹**				
著書､学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 1.『仙洞句題五十首･水無瀬恋十五首歌合全注釈』	共	平成31年3月	勉誠出版	『仙洞句題五十首』『水無瀬恋十五首』について、和歌の語釈・口語訳、判詞の口語訳を試みる。 共著者：石川一、清水明雄、田野慎二、岸本理恵、田中敦子、佐藤茂樹 **【関連授業科目：日本中世文学研究A・B】**
（学術論文等） 特記事項なし				
（教育実践記録等） 特記事項なし				
（その他） 特記事項なし				

人文学部　日本文化学科　**植西　浩一**				
著書､学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 1.対話的に学び「きく力」が育つ国語の授業	共	平成30年8月	明治図書 （5頁）	第1章－2「「対話」とそれを支える主体的・能動的に「きく力」―「対話」の概念規定とこれまでの能力表に着目して―」を執筆。西尾実、大内善一、平田オリザらよる定義や海外の文献等を参照しつつ、本質をはずさない学習指導のための「対話」の捉え方について考える。また、戦後の代表的な能力表のいくつかに検討を加え、「主体的・対話的で深い学び」を拓く「きく」ことの系統的指導の必要性を述べる。(pp.15～19) 共著者：益地憲一、植西浩一、他 **【関連授業科目：国語科教育入門、国語科授業実線研究Ⅱ、国語科教育法Ⅰ～Ⅳ】**
（学術論文等） 1．中学校教材としての漱石文学―現行教科書教材に着目して―	単	平成31年3月	広島女学院大学国際教養学部紀要，第6号	現行教科書への漱石文学の掲載状況を調査し､考察を加えた。現行教科書には5社とも『坊っちゃん』の冒頭部が採録されている。それぞれ「読むこと」､「読書」､「資料」と扱いが異なり、学年も3学年にまたがっているが､近代文学入門としての意味が強い。掲載箇所や課題提示の方法、作者紹介の在り方等について考察を加えるとともに、『吾輩は猫で

				ある』との併載、「古典」としての扱いを今後の教材化の在り方として提案した。 **【関連授業科目：日本文学講読Ⅱ，国語科教育法Ⅰ～Ⅳ】**
２．豊かなイメージ形成をめざした読むことの学習指導―夏目漱石「夢十夜」の先行研究をふまえて－	単	平成 31 年3 月	国語教育実践理論研究会紀要，（8 頁）	学習者に豊かなイメージを形成させ、主体的かつ深い読みに導くための方途について、夏目漱石の「夢十夜」を教材に考察する。論を進めるに際し、まず、村上春樹と漱石の言説を引き、小説におけるイメージの重要性とその概念規定を確認する。そのうえでイーザーらの研究をふまえ、イメージ化・イメージ形成という行為について考え、これをふまえて「夢十夜」の表象に即して、イメージをどうとらえるかについて論を進める。さらに、国語科の授業実践の改善について、イメージ形成を図る立場から提言する。（pp.11～18） **【関連授業科目：日本文学講読Ⅱ、国語科教育法Ⅰ～Ⅳ】**
（教育実践記録等） 特記事項なし				
（その他） １．夏目漱石「夢十夜」の教材研究―研究と授業実践の接点を求めて―	単	平成 30 年5 月	全国大学国語教育学会国語科教育研究　第134 回大阪大会研究発表要旨集	全国大学国語教育学会第 134 回大阪大会(平成 30 年 5 月 26 日)における研究発表に際し、その要旨をまとめたもの。アクティブラーニングを活動あって学びなしの状況に陥らせないための教材研究の重要性と文学研究から学ぶことの必要性を指摘する。その上で「夢十夜」の教材研究や授業実践に見出される課題を克服するための授業構想を提示する。（pp.209～212）
２．批判的思考力を培う授業実践	単	平成 30 年10 月	月刊国語教育研究No558	日本国語教育学会第 43 回西日本集会―山口大会―の第 4 分科会「〈中学校〉説明的な文章を読む」に指定討論者として参加し、発表と討議を総括した。砂川真由美氏の実践は系統的に学ばせてきた言語技術の活用を意図的に組み込んだ点に特色がある。同時にその言語技術を駆使した批判的読みを目指していることも評価できる。また、野村梨香氏の実践は、教科書本文とその原典となった文章の比較読みを行わせ、教科書のみの授業ではできない批判的読みを可能にしている。さらにリライト活動を取り入れた点が評価できる。（p.27）

人文学部　日本文化学科　**渡邊ゆかり**

著書、学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				

（学術論文等） １．中国語を母語とする日本語学習者の「動詞-ようになる」の習得について―状態変化を表す「動詞-ようになる」の習得上の問題―	単	平成 31 年 3 月	広島女学院大学大学院言語文化論叢 第 22 号 （18 頁）	本研究では、中国語を母語とする日本語学習者が「動詞‒ようになる」を習得する際には、Ⅰ「動詞‒ようになる」が、定着度の高いある事態 A が、あることをきっかけに、定着度の高い別の事態 B へ移行することを表すこと、Ⅱ「動詞-ようになる」文が、新たな事態の発生を誘発した事態、事物を表す表現や新たな状態への移行時期を表す表現や新たな事態へ移行する際の様相を表す表現を伴いやすいことに留意する必要があることを示した。 （pp.1～18） **【関連授業科目：「日本語教授法Ⅰ」「日本語教授法Ⅱ」「日本語教授法Ⅲ」「現代日本語基礎文法」】**
（教育実践記録等） 特記事項なし				
（その他） 特記事項なし				
人文学部　日本文化学科　　**足立　直子**				
著書､学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） １．「漫画・アニメにおける芥川表象の変遷」	単	平成 30 年 7 月	『芥川龍之介研究』 第 12 号 国際芥川龍之介学会 （4 頁）	本論文は前年の国際芥川龍之介学会「第 12 回大会開幕記念シンポジウム」における「マルチメディア時代の芥川龍之介の表象―文学の流通・越境・再生産―」というテーマの中で発表したものをまとめたものである。特に、漫画やアニメ、更にはネットゲームにおける芥川像の描かれた方の変遷について具体例を示しながら明らかにした。その変遷の背景には教育的戦略や女性読者を意識した発信方法が確認できるのであり、時代の中で、芥川像がより親しみやすく洗練された形で受容されていることを論じた 。（pp.96～99） **【関連授業科目：日本近現代文学史】**
（教育実践記録等） １．地域における行事を軸とした持続可能な開発のための教育プログラムの検討	共	平成 30 年度	広島女学院大学学術助成（共同研究）	本研究は地域の伝統行事を題材として、ESD 及び新学習指導要領で教育内容の主な改善事項である「伝統や文化に関する教育の充実」及び「体験活動の充実」を図るための教育プログラムを検討するものである。研究代表者が中心となって「殿賀田楽」に関する実態調査、実地調査及び関係者への聞き取り調査、また図書館等での文献収集を行なった。

				研究代表者：楢﨑久美子　研究補助：足立直子
（その他） １.『赤い鳥事典』（項目執筆「片山広子」「南部修太郎」）	共	平成 30 年 8 月	柏書房（663 頁）	本事典は、雑誌『赤い鳥』が創刊されて 100 年の年にあたる本年に、研究者だけでなく子どもの文化に関心を持つ幅広い読者を想定して編集したものである。筆者は大正期に小説家として活躍していた「片山広子」と「南部修太郎」について、『赤い鳥』に発表した作品を紹介しながらその項目をまとめた。（p.164、p.201） 著者：武藤清吾、足立直子 、他 176 名

2018年度　教育研究業績

人間生活学部　生活デザイン学科　**細田　みぎわ**

著書、学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） 特記事項なし				
（教育実践記録等） 1．「空き家再生プロジェクトー岡山市東区犬島ワークショップー」	単	平成31年3月	広島女学院大学人間生活学部紀要第6号（6頁）	2017年度広島女学院大学学術助成研究（個人研究）「空き家再生のあり方―岡山県犬島における廃材プロジェクト―」の報告書である。廃材プロジェクトとは、住宅を構成している廃材（木材）に役割を与え、産廃として燃やしてしまう時期を少しでも後伸ばしをすることを目的とする。学生等によるワークショップで、犬島の新たな移住者や長期間滞在のアーチストの住環境整備を行うことにより、空き家再生を目差す。法的に新築が不可能なこの島において、古い家、及び廃材に新たな役割を与えることにより、循環型の環境整備を実現する。（pp.95～100） **【関連授業科目：インテリアデザイン論、生活デザイン・建築セミナーⅠ、Ⅱ】**
（その他） 特記事項なし				

人間生活学部　生活デザイン学科　**小林　文香**

著書、学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） 1．山村留学家族方式による学校存続に向けた取り組みの実態　小学校存続活動を契機とした持続的居住支援システムに関する	共	平成31年2月	日本建築学会計画系論文集、第84巻756号（10頁）	過疎化が進む地域の持続的な居住支援を見据え、家族方式で山村留学を実施する小学校と周辺地区を対象に山村留学家族方式の経緯、現状を把握し、取り組み成果を明らかにする。（pp.377～386） 著者：石垣文、山本幸子、下倉玲子、小林文香、福田由美子 **【関連授業科目：住生活論（含住居学概論）、住居・建築計画学Ⅱ、建築倫理（含建築職能論）】**

研究　その３				
（教育実践記録等） 特記事項なし				
（その他） １. 東区女性会研修会「住み続ける町Ⅱ」 ２. 産学連携プロジェクト「まちのコミュニティハウスプロジェクト」	単	平成 30 年 8 月、平成 31 年 2 月 平成 30 年 9 月～現在に至る		平成 29 年度「住み続ける町」に引き続き、東区女性会研修会（年 2 回）の講師を務めた。研修では、まちづくりを目的とした自分たちの居住地区について現地調査をふまえた将来像を表現した地図を作成した。 トータテ都市開発より「事業者と、住人をはじめとした地域社会の当事者が一体となって愛着と誇りある未来のまちづくりを目指すため、広島女学院大学と共に、全国各地で数々の地域再生、団地再生プロジェクトを手掛けるブルースタジオの監修のもと、授業を通じて新しい街づくりのあり方を検討したい」との意向を受けて実施したプロジェクトである。授業内で学生たちが地域調査を行い、調査結果をもとに、新しい街づくりのあり方の提案として「まちのコミュニティハウス」の設計に取り組んだ。連携先で実施採用案の選定が行われ、1 点が選ばれた。

人間生活学部　生活デザイン学科　　**真木　利江**

著書､学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） １. 広島平和記念公園におけるランドスケープデザイン 丹下健三による構想の変遷 （査読付） ２. 丹下健三による戦没学徒を記念する広場のランドスケープデザイン	共 共	平成 30 年 6 月 平成 31 年 3 月	日本建築学会計画系論文集 第 83 巻、第 748 号、(9 頁) 日本建築学会中国支部研究報告集 第 42 巻、（4 頁）	丹下健三らによる広島平和記念公園のランドスケープデザインを、1949 年から 1955 年までと 1970 年代の 2 つの時期を対象に明らかにし、南北の中心軸および、平和記念と慰霊の表現について考察を加えた。(pp.1117-1125) （研究全体の取りまとめ、執筆を担当。新畑氏は一部資料収集及び植栽の特徴に関する専門的知識を提供。） 著者：<u>真木利江</u> 、新畑朋子 **【関連授業科目：生活・建築セミナーⅠd, Ⅱd 卒業研究セミナーⅠd, Ⅱd】** 丹下健三らによる戦没学徒を記念する広場のランドスケープデザインについて、周囲からの眺め、広場・参道からの眺め、植栽の変遷という 3 つの観点から特徴を明らかにした。(pp.919-922) （研究全体の取りまとめ、執筆を担当。新畑氏は一

				部資料収集及び植栽の特徴に関する専門的知識を提供。） 著者：真木利江、新畑朋子 **【関連授業科目：生活・建築セミナーⅠd, Ⅱd 卒業研究セミナーⅠd, Ⅱd】**
（教育実践記録等） 特記事項なし				
（その他） <学会発表> 1．クルーム・パークの変遷と構成	単	平成 30 年 9 月	2018 年度日本建築学会大会（東北）学術講演梗概集（2 頁）	18 世紀イギリス風景庭園の代表的作品であるクルーム・パークの変遷を 3 期に区分して明らかにし、構成の特徴を 3 つの異なるスケールによる構成という観点から論じた。（pp.275-278） **【関連授業科目：建築意匠論Ⅰ】**

人間生活学部　生活デザイン学科　　**三木　幹子**

著書、学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） 1．女子大生の恋愛と結婚に対する意識調査(第 3 報）－ジェンダー意識と理想の男性像との関係－	単	平成 31 年 2 月	広島女学院大学論集，第 66 集（電子版第 6 号），（14 頁）	女子大生を対象に、ジェンダー意識のアンケートを行い、因子分析により、結婚相手に求める条件との関係を検討した結果、以下のことが明らかとなった。 ・男性に「経済力」を求める女性は、ジェンダー意識が強く、反対に、「経済力」を求めない女性は、男性と同等に仕事をしたいと思っており、自立志向が強い。 ・男性に「内面・性格」を求める女性は、女性としての性を自覚しており、男性に優しさや誠実さを求める傾向が強い。 ・男性に「男らしさ」を求める女性は、ジェンダー意識が低いが、女性としての身だしなみやマナーの意識が高い。 ・男性に「外見」を求める女性は、幸せな結婚を希望し、容姿を含めた男性への理想が高い。また、日常で女性をアピールする行動をとり、男性への対抗意識は低い。（pp.19～32） **【関連授業科目：被服心理学、女性とライフスタイル、対人関係の心理】**

（教育実践記録等） 特記事項なし				
（その他） 特記事項なし				

人間生活学部　生活デザイン学科　　田頭　紀和

著書、学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） 特記事項なし				
（教育実践記録等） 西日本におけるクサノオウ（ケシ科）の染色体多様性と分布傾向	共	平成 30 年 9 月	日本植物学会第 82 回大会研究発表記録	西日本におけるクサノオウに見られる染色体の個体群変化を分子細胞遺伝学的、植物地理学的な分析を行い、その傾向を明らかにした。基本染色法と分子細胞遺伝学的手法を用いた染色体解析により、クサノオウには広域型、中国山地東部型、中国山地西部型、ソハヤキ型やそれらの地域変異個体群が存在し、多様な染色体特性を示すことが明らかになった。 発表者：田頭紀和、浜谷修一
（その他） 特記事項なし				

人間生活学部　生活デザイン学科　　福田　道宏

著書、学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 1．画家の旅―日本画家中庭煖華の日記にみる旅と日常（広島女学院大学総合研究所叢書第 7 号）	単	平成 30 年 8 月	大学教育出版 （186 頁）	兵庫で生まれ、東京に出て絵描きとなり、横浜で暮らし、1940 年から始まった文部省の法隆寺金堂壁画模写事業に追加採用されて春秋を奈良で過ごし、終戦の直前、家族を伴い奈良斑鳩に移り、そこで生涯を終えた再興院展の日本画家中庭煖華（1901～78）。奈良で過ごした彼の後半生の日記を翻刻紹介するとともに、そこに記された旅の記述をもとに、画家の画業と、画家にとっての旅について考察した。 **【関連授業科目：芸術文化フィールドワーク・卒業研究プレセミナー・都市と文化財】**

（学術論文等） 1．ひろしまが生んだ美術作家たち　池田栄廣–遍歴の日本画家、その異色の経歴と広島との絶えざる所縁	単	平成 30 年 12 月	美術ひろしま 30 （4 頁）	呉に生まれ、大分に行き、のち京都で活躍した日本画家池田栄廣について、これまであまり知られていなかった前半生、堂本印象に師事して犬を描く画家として注目を集めていた戦前期を中心に、堂本門下を出て再興院展に転じるまでの経緯を新資料を基に跡づけた。（pp.76～79） **【関連授業科目：都市と文化財】**
2．小千谷東忠あて大亦観風書簡三	共	平成 31 年 3 月	広島女学院大学 国際教養学部紀要 第 6 号 （14 頁）	和歌山出身の日本画家大亦観風（1894～1947）が新潟小千谷の料亭東忠の主人東平三郎にあてた書簡を翻刻紹介するとともに解題を付した連載の第 3 回。奥村一郎とともに 翻刻を担当し 、髙村佳子と 校訂し（pp.5～14） 、解題「一九四二年、大亦観風と東平三郎をめぐるひとびと」。（pp.1～5） 著者：福田道宏 、奥村一郎、髙村佳子 **【関連授業科目：卒業研究プレセミナー】**
（教育実践記録等） 特記事項なし				
（その他） 1．美人のみかた、芸術のかたち（第 36 回広島女学院大学公開講座	単	平成 30 年 10 月	2018 年度広島女学院大学公開講座	「美人画」とよばれる絵画のジャンルがある。神話や歴史上の、あるいは同時代の特定の人物を描く肖像画とは異なり、女性の美そのものをテーマとする絵画で、日本絵画を特徴づけるもののひとつである。描かれた美人たちを見ながら日本絵画の楽しみ方を紹介する。
2．屏風のしくみとひみつ、日本絵画のたのしみ	単	平成 30 年 11 月	平成 30 年度早稲田アカデミー （早稲田公民館）	一般家庭で使うことは少なくなったが、意外と身近に見かける屏風。しかし実際に触れる機会は少ないかもしれない。奈良時代に中国から伝わった、空間を間仕切り、風や視線をふせぐ調度である。この屏風の仕組みと歴史から、日本絵画の楽しみかたを紹介する。 **【関連授業科目：博物館資料保存論・日本美術史】**
3．広島に息づく近世の名品 20 森寛斎「阿伏兎観音岬真景」—尊王攘夷の志士たちとも交わった骨太の絵師、円山派の最後を飾る	単	平成 30 年 12 月	グランデひろしま 第 23 号 （2 頁）	広島ゆかりの近世美術を紹介するリレー連載の第 20 回で現在個人所蔵の森寛斎《阿伏兎観音岬真景》について、描かれた広島の阿伏兎観音と長州の画家森寛斎の画業について考察した。（pp.4～5） **【関連授業科目：都市と文化財、卒業研究プレセミナー】**
4．WORKS「まちなかホスピス」福元日奈子・話題の展覧会「新井卓 広島／明日の歴史のために」・「村野藤吾の建築 — 世界	単	平成 30 年 12 月	美術ひろしま 30 （6 頁）	広島の美術の現在を 2 年に一度展望する公益財団法人広島市文化財団発行の『美術ひろしま』において、第 30 集となる今回も編集委員をつとめ、「WORKS」「話題の展覧会」「広島の美術この 2 年」を執筆した。（pp.34、42～43、50～51、94） **【関連授業科目：都市と文化財、博物館概論、博物館資料保存論、博物館実習Ⅰ～Ⅲ】**

平和記念聖堂を起点に」・広島の美術この2年いまふたたび所蔵品と向き合い、県市民と結ぶ広島県立美術館の所蔵作品ミニガイド				
５．研究発表（要旨）昭憲皇太后入内と慶応末年・明治初年の絵師の御用について―京都府立京都学・歴彩館蔵『寿栄君御方女御御入内仮日記』をもとに―	単	平成30年12月	近代画説第27号	2017年3月に明治美術学会第4回例会で行った研究発表の要旨を執筆依頼され寄稿した。 **【関連授業科目：都市と文化財】**
６．広島に息づく近世の名品21和田八幡神社「三十六歌仙図ならびに随身像額」―先人たちの教養をむらの小さな社に見る	単	平成31年3月	グランデひろしま第24号(2頁)	広島ゆかりの近世美術を紹介するリレー連載の第21回で広島市湯来町の神社に掲げられた《三十六歌仙図ならびに随身像額》について紹介した。（pp.:4～5） **【関連授業科目：都市と文化財、日本史、地域と歴史、卒業研究プレセミナー】**

人間生活学部　生活デザイン学科　**熊田　亜矢子**

著書､学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） 特記事項なし				
（教育実践記録等） 特記事項なし				
（その他） １．女性向け農作業着『nomodo』新商品の開発	単	平成30年11月28日	広島テレビ（11/28､テレビ派放送済み） 中国放送（11/28放送済み）	NNN ニュース日テレ NEWS24「おしゃれな農作業着を開発」 農業の担い手として女性の活躍を応援しようと広島女学院大の学生たちが｢おしゃれな農作業着を開発した」 RCC ニュースヘッドライン「女子大学生と共同開発　女性用農作業着を披露」

				女子大学生の発想を取り込んだ女性向けの農作業着が完成し発表会がありました。 広島女学院大学人間生活学部の学生が着ているのは自分たちがデザインした女性向けの農作業着です。 三原市に本社のある作業用品の販売会社･アトムワークスとコラボしておよそ1年半かけて開発しました。
		平成30年 11月29日	中国新聞 （11/29中国経済ページ）	中国新聞アルファ「デニムやレース…農作業をおしゃれに 女学院生が共同開発」 作業用品販売のアトムワークスは広島女学院大の学生と共同で、女性向け農作業着を開発した。広島市東区のキャンパスで28日、発表した。
			中国新聞	ニュースコレクト「母親に贈りたくなる農作業着 広島女学院大生ら開発」
		平成30年 12月6日	広島経済レポート （2018年12月6日号,No.3134,P.9）	女性の発想生かす ゴム手袋のアトムグループで作業用品販売のアトムワークスは11月28日、広島女学院の学生と共同制作した女性向け農作業着「nomodo」の新デザイン完成報告会を同大で開いた。作業着の画一的で質素なイメージを変えようと、マーケティング支援のハーストーリィプラス（西区）の協力を受け、2014年に開発。若い女性の発想を取り入れようと、昨年から同大でデザインを学ぶ学生と検討を進めてきた。帽子、エプロン、フットカバーの3点を発表。
		平成31年 3月25日 ～ 3月29日	生協ひろしまくらサポ	農業女子向けの作業着 nomodo nomodo with HJU 自然とともに生きる暮らしがもっと楽しく色鮮やかになるように、素材やデザイン、コーディネートを広島女学院の学生と考えました。

人間生活学部 生活デザイン学科 **檜﨑 久美子**

著書､学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概 要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） 1. 祭礼に用いられる装束の実態 - 殿賀花田植えの早乙女衣装を例に-	単	平成31年 3月	広島女学院大学 人間生活学部紀要 第6号 （5頁）	広島県安芸太田町で地域の伝統行事として親しまれている「殿賀花田植え」に登場する早乙女の衣装について、装束の計測、素材の確認等を行い、今後この行事を伝えていくための基礎資料として活用できるよう調査を行った。（資料）（pp. 75-79） **【関連授業科目：衣生活論（含被服学概論）、日本服装史、服飾美学】**
2．非認知能力を育てるキリスト教主義教育の可	共	平成31年 3月	広島女学院大学 人間生活学	2016年度から継続しているキリスト教主義教育が非認知能力を育てる可能性があるのではないかという仮説の元、「キリスト教の時間」に提出される

能性について			部紀要 第 6 号 （9 頁）	コメントカードのテキスト分析を行っていた。本稿では、2017 年度春学期のコメントカードの分析、考察と今回は「キリスト教学入門Ｉ」で行われた授業内アンケートの結果のまとめと考察を行った。 共同研究につき抽出不可：「キリスト教学入門Ｉにおけるアンケートとその結果、考察」について執筆 著者：前田美和子、加藤美帆、檜﨑久美子
（教育実践記録等） １．地域における行事を軸とした持続可能な開発のための教育プログラムの検討	共	平成 30 年度	広島女学院大学学術助成（共同研究）	本研究は地域の伝統行事を題材として、ESD 及び新学習指導要領で教育内容の主な改善事項である「伝統や文化に関する教育の充実」及び「体験活動の充実」を図るための教育プログラムを検討するものである。研究代表者が中心となって「殿賀田楽」に関する実態調査、実地調査及び関係者への聞き取り調査、また図書館等での文献収集を行なった。 研究代表者：檜﨑久美子　研究補助：足立直子
（その他） １．キリスト教学校教育同盟関西地区協議会大学部会研究集会発題･討議講演講師	共	平成 30 年 9 月	広島女学院大学	左記大会において「われらは神と共に働くものなり―広島女学院大学のキリスト教主義教育における多様性と共働―」というタイトルで、2016 年度から継続している共同研究「非認知能力を育てるキリスト教主義教育の可能性について」の発表を行った。 講師：澤村雅史、前田美和子、檜﨑久美子
２．広島女学院大学公開セミナー講師	単	平成 30 年 10 月	広島女学院大学	「生活と色彩文化―服飾を中心に―」というタイトルで、一般市民を対象としたセミナーを担当した。（120 分）
３．早稲田アカデミー　講師	単	平成 30 年 10 月	広島市牛田早稲田公民館	「和文様の過去・現在」というタイトルで、一般市民を対象としたセミナーを担当した。（90 分）
４．「総合の時間」講師	単	平成 31 年 3 月	萩市立育英小学校	山口県萩市立育英小学校教諭石田千陽氏より依頼を受け、「総合の時間」に「殿賀花田植え」の概要と衣装説明、着装体験を同小 3 年生に行った。（100 分）

人間生活学部　生活デザイン学科　**伊藤　千尋**

著書､学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） １．「ザンビア・カリバ湖の商業漁業:アクターの変化と資源をめぐる諸問題」	共	平成 31 年 3 月	『アフリカ漁民文化論―水域環境保全』春風社. （18 頁）	科研で行ってきた研究プロジェクトの最終年度の成果となる学術書において、ザンビア・カリバ湖の商業漁業について現地調査を基にその動向を執筆した。（pp.123～140） 今井一郎編 執筆者：中村亮、今井一郎、田原範子、田村卓也、

2.「住民の暮らしと行商」	共	平成 31 年 3 月	『朽木谷の自然と社会の変容』海青社.（17 頁）	古澤礼太、伊藤千尋 、藤本麻里子、大石高典・萩原幹子、山田孝子、中川千草 **【関連授業科目：地域地理学（人文地理学)、グローバル地域社会論、現代アフリカ社会論】** 滋賀県高島市朽木で行ってきた研究プロジェクトの成果を大学生･一般向けにわかりやすくまとめた著書の 1 章を担当した。行商という視点から山間部の地域社会変容を描いた。(pp.201～217) 水野一晴・藤岡悠一郎編 執筆者：青木繁、飯田義彦、伊藤千尋 、鎌谷かおる、木村道徳、熊澤輝一、嶋田奈穂子、手代木功基、中村治、八塚春名、山科千里 **【関連授業科目：地域地理学（人文地理学)、地域調査法】**
（学術論文等） 1.「VIII 海外研究 サブサハラ・アフリカ」	共	平成 30 年 12 月	『経済地理学の成果と課題 第 VIII 集（経済地理学年報第 64 号特別号)』経済地理学会（6 頁）	経済地理学会が発行する「経済地理学の成果と課題」第 VIII 集では、2008～2015 年までの関連成果をまとめている。海外研究・サブサハラ・アフリカを担当し、サブサハラ・アフリカを取り巻く近年の環境変化や関連分野の動向をまとめて論じた。（pp.200～205）経済地理学会編 **【関連授業科目：地域地理学（人文地理学)、グローバル地域社会論、現代アフリカ社会論】**
（教育実践記録等） 特記事項なし				
（その他） ＜招待講演＞ 1.「アフリカを『知る』ことで見えるもの」		平成 30 年 8 月 22 日	第 23 回広島県国際理解教育研究大会	在外教育施設に派遣された小学校教員が主体となっている国際理解教育研究協議会より依頼を受け、国際理解教育に関する講演を行った。 （主催：広島県国際理解教育研究協議会)，於ひろしま国際プラザ.
＜児童書制作＞ 1.児童書の編集協力		平成 30 年 10 月	『DOOR―208 の国と地域がわかる国際理解地図 ③アフリカ』帝国書院	現在のすべての国を網羅的に絵地図で示す児童書の制作に、情報提供や情報確認の点から協力した。 中村和郎・次山信男・滝沢由美子監修

2018年度　教育研究業績

人間生活学部　管理栄養学科　**石長　孝二郎**				
著書、学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） １.栄養管理プロセス	共	平成 30 年 8 月	第一出版 （296 頁）	日本栄養士会が監修した栄養ケアプロアセスの日本版として栄養管理プロセスが編集された。著書は日本栄養士の会長、理事によって監修されている。内容は栄養ケアプロセスの概念から栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養診断の専門用語の解説、また実際の運用の仕方について解説した著書である。栄養アセスメントの内容の分担執筆をし、間違えやすい内容について丁寧に解説した。 （pp. 24～91） 共著者：中村丁次、木戸康博、山本貴博、石長孝二郎、片桐義範、他 17 名 **【関連授業科目：臨床栄養学】**
２.臨床栄養学実習－傷病者の栄養管理プロセス演習－	共	平成 30 年 6 月	医歯薬出版株式会社 （166 頁）	2015 年版モデルコアカリキュラムを踏まえ、臨床栄養学実習の傷病者の栄養管理プロセス演習が編集された。演習では、対象者の健康・栄養状態を適正に栄養評価して、栄養診断し、栄養介入を計画・実施し、栄養モニタリング・評価を行う PDCA サイクルを回すための応用力、統合力、マネジメン力が求められる。筆者は、さまざまな疾患に対する栄養管理において、メタボリック症候群を担当し、症例を分析して栄養評価や栄養診断のやり方を解説した。（pp.37～41） 編者：川島由起子、塚原丘美、加藤昌彦 執筆者：石長孝二郎 、井上啓子、棋村春江、太田真実子、片桐義範、熊本登司子、小見山百絵、金胎芳子、中東真紀、藤岡由美子、和田安代 **【関連授業科目：臨床栄養学】**
３．在宅，施設，病院で応用できる栄養ケアプロセス	共	平成 30 年 5 月	建帛社 （167 頁）	日本栄養士会が推奨している栄養ケアプロアセスの実践的な入門書として編集された。栄養ケアプロセスの概念から理論、実際の運用の仕方についてわかりやすく解説した著書である。さらに、在宅、施設、病院で応用できるように 11 症例を提示し、管理栄養士が栄養ケアプロセスを運用しながら効果的な評価・プランの仕方について解説した著書である。（pp.37～91、103～111、113～117） 編著：石長孝二郎、片桐義範 共著：岡本理恵、他 9 名 **【関連授業科目：臨床栄養学】**

（学術論文等） １． Alterations in emotional responses (pleasantness/unpleasantness) induced by sniffing food odors during chemotherapy in patients with lung cancer	共	平成 30 年 10 月	Japanese Journal of Clinical Oncology Vol.48 No.10 （7 頁）	化学療法中の匂いに関する食物嫌悪感について研究した。化学療法中の食物嫌悪は、日常生活で匂いを強く感じている患者に、かつ、身体にとって有害な匂い（本研究ではアンモニア）を感知した際に発生する可能性が示唆された。本研究を通じて食物嫌悪を誘発する匂いの特徴を把握することで、化学療法中の患者および家族に対して、家庭で嫌悪なく食べられる献立の紹介につなげていくことが可能になると期待できる。（pp.906～912） 著者：Kojiro Ishinaga, Misato Higa, Miho Yasuda, Miki Kuwana, Chisato Nishiwaki, Masahiro Sunaga, Hitoshi Okamura **【関連授業科目：臨床栄養学】**
２．がん治療対策食を考案するための女子大学生を対象とした食材温度による食物臭に対する快・不快の相違	単	平成 30 年 10 月	栄養学雑誌 Vol.76 No.5 （10 頁）	がん治療対策食を考案するための予備的検討として、女子大学生を対象に、食材の温度とアンモニア混入時の食物臭に対する快・不快の相違を検討した。グレープフルーツ果汁は悪臭を中和もしくはマスキングする可能性が示されたが、その反応はある一定レベルの状態でプラトーに達し、残った悪臭が加温により上昇気流にのり、嗅上皮の嗅細胞にたどりつき、主観的な快な気分を打ち消した可能性が考えられた。（pp.1～10） 著者：石長孝二郎 **【関連授業科目：臨床栄養学】**
（教育実践記録等） 特記事項なし				
（その他） １．“におい識別装置”を活用した“がん患者が嫌悪感を訴える食事ニオイパターン”の分析	単	平成 30 年 4 月	医療の広場 第 58 巻 第 4 号	健常者 55 名を対象にニオイに対する気分の快・不快をにおい識別装置を用いて評価した。その結果、嫌悪感が出現しやすい煮魚よりも、食べやすい柑橘系果物の臭気指数相当値が高値であったことから、嗅覚嫌悪はニオイの強さだけではなく、ニオイの質が関連していると考えられた。（pp.11～15） 著者：石長孝二郎 **【関連授業科目：臨床栄養学】**

人間生活学部　管理栄養学科　　下岡　里英

著書、学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） 特記事項なし				

（教育実践記録等） 1．管理栄養士養成施設における災害支援教育の教材の検討（資料）	共	平成 31 年 3 月	広島女学院大学 人間生活学部紀要 第 6 号 （10 頁）	災害時に専門職として対応できる管理栄養士の養成が求められている。災害支援実践セミナーでの教育をまとめ、教育効果を整理した。実践的活動をとり入れた授業を展開しているが、体験を通した活動が知識の定着に有効であることを示した。 （pp. 83～92） （担当執筆：共同研究につき抽出不可） 著者：渡部佳美、下岡里英、市川知美 **【関連授業科目：栄養教育論】**
（その他） 学会発表 1．水中競技におけるエネルギー消費量の検討	共	平成 30 年 7 月	日本スポーツ栄養学会第 5 回大会	水中競技におけるエネルギー消費量を、Mets を用いた要因加算法と心拍計を用いた心拍計法で比較した。一般的に心拍数と運動強度は直線関係が得られるが、水中競技の特殊性から動作によって Mets にで示される強度と心拍数から予想される強度が異なることが認められた。 （共同研究につき抽出不可） 下岡里英、來海由希子、石見百江
2．水中競技選手における栄養管理	共	平成 31 年 2 月	第 30 回広島スポーツ医学研究会	スポーツ選手に対する栄養管理方法の実践と効果をまとめた。管理方針として体重管理、食事管理とした。個々に行動目標、結果目標を設定し支援した内容を整理した。家族の支援など社会的サポートが得られる場合は行動変容が容易であることが分かった。しかし、体重管理など自己管理能力が必須となる行動については十分は支援ができなかった。 （共同研究につき抽出不可） 下岡里英、中藪宏美

人間生活学部　管理栄養学科　**渡部　佳美**

著書, 学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） 特記事項なし				
（教育実践記録等） 1．管理栄養士養成施設における災害支援教育の教材の検討	共	平成 31 年 3 月	広島女学院大学 人間生活学部紀要 第 6 号 （9 頁）	災害支援教育の効果的な教育プログラムならびに教材の開発を目的として、管理栄養士養成施設において開設している災害支援実践セミナーの授業内容の課題を把握するとともに、教育効果を検証するため、質問紙調査を実施した。受講者群において、防災情報に関する知識の認知が高かった。また、災害時の備えについて、受講者群では災害時における

				非常持ち出し品の用意や家族内の連絡方法の決定等、自身でできる防災活動に取り組んでいることが判明した。体験活動を取り入れた授業内容において、非受講者群と比較して認知が高く、実践に繋がったと推察される。（共同研究につき抽出不可） 本人担当部分：調査及びデータの総括 著者：渡部佳美、下岡里英、市川知美
（その他） <学会発表> １.郷土食に関する女子大生とその保護者の実態と比較	共	平成 30 年 8 月	日本調理科学会 日本調理科学会平成30年度大会研究発表要旨集 p.97（平成30年8月30・31日） 兵庫県	昭和30～40年頃までに定着していた地域の郷土料理と、その暮らしの背景を明らかにするため、広島県を 8 地域に区分し、主菜の特性について調査した。魚介類を用いた料理が最も多く 30 品であった。瀬戸内海沿岸で水揚げされる魚介類を用いた料理が挙げられた。山間部では鮮魚でも腐りにくく、無塩物として運搬するのに適した鮫を「ワニ」と称して刺身で食していた。塩を用いて保存性を高めた料理があった。東部沿岸でも発酵させた「しばずし」が食されていた。全域で行事には「八寸」が食べられていた。「煮ごめ」は浄土真宗の門徒が、親鸞の命日前後の「おたんや」で必ず作る精進料理であり、広く食されていた。肉料理は「松茸すき焼き」「肉じゃが」が食されていた。調理操作は「煮る」操作が最も多かった。 本人担当部分:中部台地の聞き書き調査およびデータの総括 （渡部佳美、奥田弘枝、石井香代子、近藤寛子、渕上倫子、高橋知佐子、岡本洋子、海切弘子、上村芳枝、北林佳織、木村安美、木村留美、小長谷紀子、塩田良子、前田ひろみ、村田美穂子、政田圭子、山口享子）
２．広島県 H 市学校給食献立の変遷と今後の食育における役割	共	平成 30 年 9 月	第65回日本家政学会中国・四国支部研究発表会研究発表要旨集 p.29(平成30年9月29・30日） 高知県	学校給食献立の変遷を調査分析し、今後の学校給食の食育における役割について検討するため、昭和31年から平成28年までの間、10年ごとの広島県H市内小学校の自校調理校における統一献立を対象とした。また、国、H市の食に関わる歴史的背景を照らし合わせ、関連性を分析した。1食あたりの平均材料数は年々増加した。和風おかずは昭和 31年から昭和 51 年にかけて年々減少傾向をみせたが、昭和52年の米飯給食導入を機に増加し、平成28年では約6割であった。「みそ汁」は、家庭のみそ汁より野菜を多く摂取できることが示唆された。郷土料理は平成18年には出現回数が増加し、種類が豊富になった。「食育基本法」が施行され、「第二次食育推進基本計画」において、従来からの地場産物の使用に追加し、「学校給食における国産食材を使用する割合の増加」の数値目標が掲げられていることから、地場産物や国産食材を活用した郷土料理の出現が急増したと考えられる。

３.凍結含浸法を用いた食肉調理品の品質改善の試み	共	平成 30 年 11 月	第 14 回日本給食経営管理学会学術総会プログラム・講演要旨集 p.42(平成 30 年 11 月 24・25 日）埼玉県	本人担当部分：データの総括 （渡部佳美、大﨑遥、竹内真優） 凍結含浸法を用いた介護食（食肉調理品）の軟度を向上させるため、調理工程の改善を試み、その調理品の品質評価を目的とした。本法による従来の豚肉しょうが焼きの調理工程に筋切り処理を追加し、かつ肉の凍結温度を氷結晶生成温度である－5℃に設定し、従来法（凍結保持 0 時間）と 6 及び 24 時間保持での調理品の評価を比較した。評価方法は官能評価、物性測定及び衛生評価によった。肉の軟度は凍結保持時間が長くなるにつれて上昇した。物性測定の結果、硬さは 24 時間保持で最も軟化した。官能評価では、硬さは改善前より軟らかいと評価されたが、苦味や美味しさは低評価であった。一方、介護食としての提供の可否は、可能との回答が改善前より増加した。衛生評価は、生肉を筋切り処理した段階で一般生菌数は有意に増加したが、加熱工程以降では定量限界以下となり、かつ大腸菌群は不検出となったため、加熱工程を適正に実施すれば衛生面では問題ないと考えられる。おいしさについて改善の余地は残るが、筋切り処理と凍結保持時間の延長により、調理品の品質が高まることが示唆された。 本人担当部分：官能評価分析、データ統括 （渡部佳美、村上和保、那須みちこ）
＜著作＞ 伝え継ぐ日本の家庭料理　魚のおかずいわし･さばなど	共	平成 30 年 9 月	一般社団法人農山漁村文化協会,別冊うかたま 9 月号 p.16	一般社団法人日本調理科学会において、2012 年度から「次世代に伝え継ぐ日本の家庭料理」の全国的な調査研究を行い、地域に残されている特徴ある家庭料理を聞き書調査により地域の暮らしの背景とともに記録した。調査基準はおよそ昭和 35 年から 45 年までに地域に定着した家庭料理であり、地域の人々が次世代以降もつくってほしい､食べてほしいと願っている料理とした。さらに、各県から 40 品を選出し、16 のテーマに分類して刊行することとなった。著作委員として「小いわしの刺身」の調査および執筆を担当した。 （企画･編集：一般社団法人　日本調理科学会、編集：遠藤隆士、芳賀敦子、中田めぐみ、伊藤照手、担当部分著作委員：奥田弘枝、渡部佳美）

人間生活学部　管理栄養学科　　市川　知美

著書､学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） １.栄養科学シリーズ NEXT　公	共	平成 31 年 2 月	株式会社講談社	5.6 食生活指針は、国民の健康増進、生活の質の向上および食料の安定供給の確保のため 2000 年に厚

衆栄養学　第 6 版			（215 頁）	生省、文部省、農林水産省の 3 省で作成し 2016 年に一部改正された。5.7 健康づくりのための身体活動指針（アクティブガイド）は身体活動基準 2013 に基づき、国民が身体活動をより実践しやす目標として今より 10 分多く体を動かすことを推奨している。5.8 健康づくりのための休養指針は、2014 年に厚生省が策定し、休養も健康づくりに不可欠なものとして普及啓発している。5.9 健康づくりのための睡眠指針は 2014 年に策定され、睡眠の重要性を国民に普及啓発を図ることを目的としている。 （pp. 91～96） 編者：酒井徹、郡俊之 **【関連授業科目：公衆栄養学Ⅰ・Ⅱ、公衆栄養学実習】**
（学術論文等） １. 管理栄養士養成施設における災害支援教育の教材の検討	共	平成 31 年 3 月	広島女学院大学 人間生活学部紀要 第 6 号 2019 （9 頁）	災害支援教育の効果的な教育プログラムならびに教材の開発を目的として、管理栄養士養成施設において開設している災害支援実践セミナーの授業内容の課題を把握するとともに、教育効果を検証した。受講群では、防災情報に関する知識の認知が高かった。災害時の備えについて、受講群では非常用持ち出し品の用意や家庭ないでの連絡方法の決定、自身でできる防災活動に取り組んでいた。体験活動を取り入れた授業内容において、非受講者と比較して認知が高く、行動に繋がったと推察された。 （共同につき抽出不可） 著者：渡部佳美、下岡里英、市川知美 **【関連授業科目：災害支援実践セミナー】**
（教育実践記録等） １. 夜遅い食事は歯周病のリスクを上げるか？食事の質と摂取時刻の比較研究（第 1 報）	共	平成 30 年 9 月	第 65 回日本栄養改善学会学術総会	本研究は、食事の質と摂取時刻が歯肉の炎症に与える影響を明らかにすることを目的とした。歯周の炎症状態を示す高感度 CRP は、バランス食および高脂肪低食物繊維食を規則正しく食べるパターンと夜遅く食べるパターンのいずれを組み合わせても差はみられなかった。口腔細菌の 1 つである Prevotella intermedia の割合は、バランス食を規則正しく食べた群に比べ、高脂肪で夜遅い食事群で多い傾向があった。排便回数はバランス食を規則正しく食べる群で週 6.9 回だったのに対し、高脂肪で夜遅い食事群は、週 5.6 回と有意に減少した。 著者：市川知美、二川浩樹
（その他） １. 2017 年度管理栄養学科海外フィールドワーク報告書	共	平成 31 年 2 月	広島女学院大学人間生活学部管理栄養学科 （総 57 頁）	本プログラムは、管理栄養学科海外フィールドワークとして１・2 年生対象に実施され、管理栄養士・栄養士を目指す学生が、日本国内だけでなく諸外国の栄養問題にも意識を向け、諸外国の学生との交流の中で、地球レベルでの栄養の課題と取り組みにつ

				いて考える意欲を高めることを目的としたものである。（共同につき抽出不可） 著者：市川知美、渡部佳美、妻木陽子、土谷佳弘

人間生活学部　管理栄養学科　　佐藤　努

著書、学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） １．Storage Properties of Japanese Anchovies (*Engraulis Japonicus*) during the Salting Period.	共	平成 31 年 3 月	広島女学院大学 人間生活学部紀要 第 6 号 （4 頁）	カタクチイワシフィレ―の異なる温度条件下（4、20、35℃）での塩蔵による、ATP 関連物質量および鮮度恒数 K 値、水分活性、腐敗指標である揮発性塩基態窒素量の変化を調べ、塩蔵フィレ―中で、うま味物質であるイノシン酸の減少を伴いながら、タンパク質は腐敗せずに低分子化してゆくこと、結果として分解物の中には生理活性ペプチド等の生成も期待できることを報告した。（pp.79～82） 著者：佐藤努、石井伶奈 **【関連授業科目：食品学Ⅰ・Ⅱ】**
（教育実践記録等） 特記事項なし				
（その他） 特記事項なし				

人間生活学部　管理栄養学科　　土谷　佳弘

著書、学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） １．Structural instability of IκB kinase β promotes autophagic degradation through enhancement of Keap1 binding.	共	平成 30 年 11 月	PLoS ONE 13(11) e0203978 2018 年	NF-κB シグナル伝達の必須キナーゼである IKKβ は、ユビキチン様ドメイン（ULD）を含む N 末端キナーゼドメイン（KD）および C 末端足場ドメインから構成される。ヒートショックプロテイン（Hsp90）は、IKKβ の活性化に必要であるとされているが分子機構は明らかにされていない。 本論では、Hsp90 の阻害は Keap1 シグナルを介して IKKβ の分解を誘導することを発見した。このことより、タンパク質毒性ストレス負荷におい

				て、Keap1 は IKKβ の分解誘導と NF-κB 活性化の負の調節に関与していることが示唆された。 （共同研究につき抽出不可） 著者：Kanamoto M, Tsuchiya Y, Nakao Y, Suzuki T, Motohashi H, Yamamoto M, Hideaki Kamata
（教育実践記録等） 特記事項なし				
（その他） １．2017 年度管理栄養海外　フィールドワーク報告書	共	平成 31 年 3 月	広島女学院大学	本プログラムは、特別セミナーII(管理栄養学科海外フィールドワーク)として実施され、管理栄養士・栄養士を目指す学生が、日本国内だけでなく諸 外国の栄養問題に意識を向け、アメリカ合衆国ハワイ州における栄養の課題について報告書としてまとめた。（共同研究につき抽出不可） 著者：市川知美、妻木陽子、土谷佳弘

人間生活学部　管理栄養学科　　妻木　陽子

著書､学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） １.食物アレルギー患者に対する地域社会を基盤とした支援	共	平成 30 年 9 月	北隆館 （5 頁）	食物アレルギー患者は､食事管理に日々留意しながら園や学校、地域社会での生活を送っている。その中で、患者家族が抱える課題、地域での食物アレルギー対応、国内市場での食物アレルギー対応、地域教育の必要性 をまとめ、著者が行っている地域教育活動の一例を挙げ､今後に求められる地域教育活動の必要性や展望について検討した。（pp. 84～88） 著者：妻木陽子 、坂井堅太郎 **【関連授業科目】ライフステージ別栄養学、基礎栄養学**
２.栄養科学シリーズ　公衆栄養学　第 6 版 4.4　食生活とアレルギー	共	平成 31 年 2 月	株式会社講談社 （5 頁）	本書は、管理栄養士･栄養士を目指す学生を対象とし､新カリキュラムの教育目標を達成するための内容が盛り込まれた公衆栄養学分野のテキストである（編者：酒井徹、郡俊之)。著者は、わが国の栄養問題の現状と課題の中でも 食生活とアレルギーに関する項目 を執筆し、アレルギーの罹患率や食品表示、災害時のアレルギー対応について解説した。(pp. 62～66) 著者：坂井堅太郎、妻木陽子 **【関連授業科目】ライフステージ別栄養学、基礎栄養学**
３.健康・栄養科学シリーズ　臨床栄養学　改訂	共	平成 31 年 3 月	株式会社南江堂 （14 頁）	本書は、管理栄養士･栄養士を目指す学生を対象とし､厚生労働省が示した管理栄養士のための新たな

第3版 第23章　免疫・アレルギー疾患				カリキュラムとガイドラインをふまえ作成された臨床栄養学分野のテキストである(編者:中村丁次、川島由起子、外山健二)。著者は、免疫・アレルギー疾患に関する項目 を執筆し、食物アレルギー、膠原病、自己免疫疾患、免疫不全に関する疾患の概要、栄養アセスメント、栄養ケア、モニタリングと再評価について解説した。(pp. 291～304) 著者：妻木陽子 【関連授業科目】ライフステージ別栄養学、基礎栄養学
（学術論文等） 1．肥満細胞培養株 RBL-2H3 細胞における、ヒスチジンおよびカルノシンが脱顆粒に及ぼす影響	共	平成 31 年 2 月	広島女学院大学論集　第 66 集（10 頁）	肥満細胞培養株 RBL-2H3 細胞を用いて、L-ヒスチジンおよび L-カルノシンを添加し、3 時間後の脱顆粒に及ぼす影響を β ヘキソサミニダーゼ遊離率より検討した。その結果、L-カルノシンにおいて脱顆粒の誘導が促進されることが示唆された。しかし、RT-PCR 法を用いてヒスチジン脱炭酸酵素である HDC の遺伝子発現を検討したところ、HDC の発現上昇は確認されず、ヒスタミン合成の促進機序は明らかにできなかった。(pp.33～42) （共同研究につき、本人担当部分抽出不可） 著者：妻木陽子 、鳥井蓉子、坂井堅太郎
（教育実践記録等） 特記事項なし				
（その他） 1．長期高ヒスチジン培養条件下における RBL-2H3細胞のヒスタミン合成に及ぼす影響 2．食物アレルギー対応食品の取扱いに関する実態把握	共 共	平成 30 年 5 月 平成 30 年 9 月	第 72 回日本栄養・食糧学会大会　講演要旨集（284 頁） 第 65 回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集（182 頁）	肥満細胞培養株 RBL-2H3 細胞を用いて、通常培地と高ヒスチジン培地で 2 週間培養した。培養後、脱顆粒を誘導させ、細胞内液および細胞外液のヒスタミン濃度を競合阻害 ELISA 法により測定した。その結果、高ヒスチジン培地においてヒスタミン濃度の上昇が見られた。しかし、ヒスタミン合成に関わる遺伝子発現には変化がみられなかったことから、ヒスタミン合成を促進するメカニズムについて今後の検討が必要である。 （共同研究につき、本人担当部分抽出不可） 著者：妻木陽子 、坂井堅太郎 食物アレルギー対応食品の家庭内での利用状況および店舗での取扱い状況を把握するため、アンケート調査および市場調査を実施した。その結果、患者家族では、品揃えの少なさや価格の高さに課題を示していた。また、食物アレルギー対応食品の取扱いには地域差が見られ、購入が困難であることが明らかとなった。今後は、価格や入手の面から手軽に購入できる食物アレルギー対応食品を利用し、料理への展開や情報提供を検討する必要がある。 （共同研究につき、本人担当部分抽出不可） 著者：妻木陽子 、坂井堅太郎

人間生活学部　管理栄養学科　**野村　希代子**				
著書、学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） １.飯との組み合わせが低塩分濃度の汁物の塩味の嗜好性に及ぼす影響	共	平成 31 年 2 月	日本家政学会誌 第 70 巻 第 2 号 （11 頁）	我が国の食事には欠かせない料理である汁について、0.4～0.9%の低塩分濃度のみそ汁、すまし汁に飯を組み合わせた場合の塩味の嗜好性（好ましさ、許容性）を、汁に含まれる吸い口や具の影響も含めて検討した。その結果、みそ汁に白飯、すまし汁に桜飯を組み合わせた評価においては、「みそ汁の次に白飯」「すまし汁の次に桜飯」を食べた場合に塩分濃度の低い汁の嗜好性は低くなり、白飯との口中調味のしづらさあるいは桜飯の塩分濃度への順応現象によるものと推察された。また、レモン果皮、葉ねぎ、ごぼうを含む汁の評価においては、「みそ汁の次に白飯」を食べた場合にレモン果皮を含むみそ汁の、「すまし汁の次に桜飯」を食べた場合にレモン果皮、葉ねぎを含むすまし汁の、塩分濃度の低い汁の嗜好性が高かった。<u>飯と組み合わせることで低塩分濃度の汁の嗜好性が低くなること、レモン果皮や葉ねぎがその嗜好性を補うことが明らかとなった。</u>（pp.57～67） 著者：<u>野村希代子</u>、戸松美紀子、北和貴、檀上沙梨、杉山寿美 **【関連授業科目：臨床栄養学実習Ⅰ】**
２.治療食献立の栄養素量と牛乳の使用状況が栄養素量へ及ぼす影響	共	平成 31 年 3 月	広島女学院大学 人間生活学部紀要 第 6 号 （12 頁）	長期にわたる治療が必要となる疾病（糖尿病、慢性腎臓病、高血圧症、脂質異常症）の治療食献立の栄養素の量について、治療ガイドラインおよび食事摂取基準に示された栄養素の量と比較するとともに、牛乳の使用状況が栄養素の量に及ぼす影響を明らかにすることを目的として、治療食献立の解析を行った。その結果、<u>エネルギー産生栄養素のエネルギー比率は治療ガイドラインに示された範囲内であったが、コレステロール量、食物繊維量、食塩相当量は治療ガイドラインに示された範囲外であった。</u>また、<u>カルシウム、マグネシウム、亜鉛、ビタミン B_1、ビタミン B_2 の量は、食事摂取基準の推奨量よりも低かった。</u>これらの栄養素は国民健康・栄養調査の結果でも、食事摂取基準に示された値には達しておらず、<u>治療食においても摂取しにくく、習慣的な不足が生じる危険性がある栄養素と考えられた。</u>牛乳の使用量や使用方法は治療食によって異なっていたが、<u>牛乳を飲用として使用した献立は、使用していない献立と比較しカルシウム</u>

				量が多く、糖尿病治療食では有意に多かった。これらのことから、治療ガイドラインのみでなく食事摂取基準にも適合するよう、意識的な食品選択等によって献立を作成する必要があると考えられた。（pp.1～12） 著者：野村希代子 、神原知佐子、岡壽子、杉山寿美 **【関連授業科目：臨床栄養学実習Ⅰ】**
（教育実践記録等） 特記事項なし				
（その他） 特記事項なし				

人間生活学部　管理栄養学科　　**野村　知未**

著書､学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） 特記事項なし				
（教育実践記録等） 特記事項なし				
（その他） ＜学会発表＞ １. ガスダッチオーブンの調理過程における煮物料理の核酸関連物質変動と嗜好性について	共	平成 30 年 8 月	第 8 回日本調理科学会中国・四国支部大会研究発表	ガスダッチオーブンで調理した煮物は従来法に比べて優れた嗜好性が期待できることが示唆された。 （共同研究につき抽出不可：実験、考察担当） 著者：野村知未 、林秀行、山本克也、水馬義輝、佐藤英男、田中美花、塩田良子、戸松美紀子、杉山寿美
＜産学官連携＞ １. ガスダッチオーブン調理のおいしさに関する研究	共	平成 30 年 11 月～現在に至る	広島ガス、西部ガス、県立広島大学、広島文教女子大学共同研究	ガス調理におけるうま味成分を引き出す最適調理の研究を発展させる産学連携の共同研究である。

2018年度　教育研究業績

人間生活学部　児童教育学科　**神野　正喜**

著書、学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） 特記事項なし				
（教育実践記録等） 特記事項なし				
（その他） １.熊野町町制施行 100 周年記念絵本 ・『熊野の筆づくり』 ・『ゆるぎ観音』 ・『佐太夫伝説』	共同	平成 30 年 10 月	熊野町 （28 頁） （24 頁） （32 頁）	熊野町町制施行 100 周年記念絵本の監修、及び、その制作指導に当たった。 著者：くまのの絵本作り隊 編集：熊野町教育委員会・100 周年記念事業プロジェクトチーム

人間生活学部　児童教育学科　**桐木　建始**

著書、学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） 1. 大学における地域協働型プログラムの効果と課題	共	平成 31 年 3 月	教育学研究紀要（中国四国教育学会、(CD-ROM 版) 64 巻（pp.405～410）	平成 30 年の学習指導要領改訂に伴い、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の充実が求められている。上記をふまえ、本研究では、教員養成を主とする学科所属の学生を対象として、アクティブラーニングの手法を取り入れた地域協働型プログラムを実践し、それらプログラムによる学習成果として、問題解決能力及び他者と協働する能力を質問紙調査により分析した。調査の結果、1 年次において、プログラムに参加した学生が「チームワーク能力」得点の上昇率が有意に高いことが明らかになった。(pp.405～406) 著者：中村勝美、桐木建始
（教育実践記録等） 特記事項なし				

（その他） 特記事項なし				
人間生活学部　児童教育学科　　**中村　勝美**				
著書、学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） １．保育原理	共	平成 31 年 3 月	渓水社 （136 頁）	改訂された幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育･保育要領に準拠した保育原理のテキストである。第 9 章「世界における保育思想と歴史的変遷」において、諸外国の保育制度の歴史では西洋における保育施設の誕生と諸外国の保育制度について概説した。また、世界の保育の最前線については、世界的な幼児教育への関心の高まりや OECD の動向、保育カリキュラムの類型について概説した。（pp.90～94） 著者：西川ひろ子、山田修三、中原大介、中村勝美、他 12 名 **【関連授業科目：保育原理】**
（学術論文等） １.大学における地域協働型プログラムの効果と課題	共	平成 31 年 3 月	教育学研究紀要（中国四国教育学会、(CD-ROM 版) 64 巻 （6 頁）	平成 30 年の学習指導要領改訂に伴い、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の充実が求められている。上記をふまえ、本研究では、教員養成を主とする学科所属の学生を対象として、アクティブラーニングの手法を取り入れた地域協働型プログラムを実践し、それらプログラムによる学習成果として、問題解決能力及び他者と協働する能力を質問紙調査により分析した。調査の結果、1 年次において、プログラムに参加した学生が「チームワーク能力」得点の上昇率が有意に高いことが明らかになった。（pp.405～406） 著者：中村勝美 、桐木建始 **【関連授業科目：保育者論】**
２.ヴィクトリア朝後期イギリスにおけるロンドン大学による学校査察	単	平成 31 年 3 月	広島女学院大学 人間生活学部紀要 第 6 号 （6 頁）	1860 年代のイギリスでは、中流階級を対象とする多種多様な中等学校の質的向上が社会問題化しており、教育改革の一方策として中等学校生徒を対象とする外部試験が開発された。本研究では、教育現場に負担を強いる外部試験に対し、内部試験を中心とする学校査察に着目した。ロンドン大学によるノース・ロンドン・コリジェート・スクールに対する査察報告書を分析し、外部評価の方法と教育の質向上に対する意義を考察した。（pp.53～58）
（教育実践記録等） 特記事項なし				

（その他） １.『大学事典』	共	平成 30 年 6 月	平凡社（全 944 頁）	事項「エリザベス学則」（pp.228～229）「オックスフォード大学」（p.245）「ジョン・ヘンリ・ニューマン」（p.727）「ダラム大学」（p.630）「チュートリアル」（p.650）「フェローシップ」（p.761）「マーク・パティソン」（p.738）「ロード学則」（p.868）「優等学位」（p.827） 編者：児玉善仁他 7 名 執筆者：中村勝美、他多数

人間生活学部　児童教育学科　　**戸田　浩暢**

著書､学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） １.「生活科」における学習･指導の改善	単	平成 31 年 3 月	広島女学院大学人間生活学部紀要第 6 号（9 頁）	本稿では､中央教育審議会が平成 28 年に示した｢答申｣に関して、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を概観した。また、「答申」に基づいて改訂された小学校学習指導要領生活に関して､生活科固有の「見方・考え方」を概観した。そして、具体的な生活科の授業を 3 つ取り上げ、今後望まれる授業に関してより改善された指導計画を提示した。ここでは、生活科で求められている「見方・考え方」を育成するために、生活科固有の「主体的・対話的で深い学び」の観点から見直した。（pp.23～31） **【関連授業科目：生活】**
（教育実践記録等） 特記事項なし				
（その他） 特記事項なし				

人間生活学部　児童教育学科　　**山下　京子**

著書､学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） １.保育者養成におけるカウンセ	単	平成 31 年 2 月	広島女学院大学論集	保育者養成におけるカウンセリングマインドの育成について､本学における｢カウンセリング実務士｣

リングマインドの育成			（第66集、電子版第6号） （17頁）	資格教育課程の実践を紹介し、その成果と課題を明らかにした。また、改組に伴う新しいカリキュラムにおいて、カウンセリングマインドの育成に必要とされる教育内容や教授方法を検討した。 （pp.1～17）
2.保育者養成課程における絵本の活用について	単	平成31年3月	広島女学院大学 幼児教育心理学科研究紀要 第5号 （12頁）	カリキュラムの変更に伴い、新カリキュラムで削除された「臨床心理学」における絵本を教材とした授業の紹介と教育効果について検討した。また、他大学の保育者養成課程において、絵本を活用した授業について概観し、本学の新カリキュラムにおける絵本の効果的な活用について考察した。（pp.1～12）
3.新しい幼児教育におけるカリキュラム･マネジメントと保育者養成校の課題	単	平成31年3月	広島女学院大学 人間生活学部紀要 第6号 (9頁)	新しい幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育･保育要領が2018年4月1日から施行された。今回新たに取り込まれた事項であるカリキュラム・マネジメントを取り上げ、幼児教育現場における評価の問題と、保育者養成校における課題を検討した。（pp.13～21）
（教育実践記録等） 特記事項なし				
（その他） 1.小規模大学における障害学生支援	共	平成30年6月29日	全国高等教育障害学生支援協議会第4回大会発表抄録集 （1頁）	山下京子・南原麻里の共同発表（ポスター発表）. 発表抄録集。（p.122） 広島女学院大学における障害学生支援の実践について、2012年度から2017年度までの6年間について振り返り、小規模大学における支援のあり方の一例を示し、利点と今後の課題を検討した。

人間生活学部　児童教育学科　　加藤　美帆

著書、学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） 特記事項なし				
（教育実践記録等） 1. 非認知能力を育てるキリスト教主義教育の可能性について（第3報）	共	平成31年3月	広島女学院大学 人間生活学部紀要 第6号 （9頁）	本研究は「非認知能力を育てるキリスト教主義教育の可能性について」の継続研究の第3報である。主に「キリスト教の時間」において提出されたコメントカードの分析を担当した。コメントカードからは、「キリスト教の時間」を契機として、学生の自己認識が深まったり、意欲が高まったりしている可能性等が示唆された。また、質問紙調査の結果も総

				合し、非認知能力の育成にキリスト教主義教育が寄与しうる可能性が示唆された。（pp. 43～51） 著者：前田美和子、加藤美帆 、楢﨑久美子
（その他） 特記事項なし				
人間生活学部　児童教育学科　　**森保　尚美**				
著書、学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） １．音楽鑑賞授業におけるリズムと音楽活動の関わりに関する研究 －踊りのリズムに着目して－	単	平成 31 年 3 月	『学校音楽教育実践論集』第 3 号 日本学校音楽教育実践学会 （2 頁）	本研究では、教材曲の特質に依拠する身体活動の手掛かりを、踊りのリズムのルーツや、初学者を対象とした舞踊指導に求め、音楽活動として教室内で応用し、効果を検証した。その結果、身体が動くエネルギーの方向や重心を知覚･感受した気付きを引き出すことができた。 **【関連授業科目：保育内容（表現Ⅰ）、保育内容（表現Ⅲ）、初等音楽科教育法、児童教育基礎セミナーⅡ】**
２．バレエ練習における子どもの動きを活用する音楽鑑賞指導法の検討	単	平成 31 年 3 月	広島女学院大学 幼児教育心理学科研究紀要 第 5 号 （8 頁）	本論文では Royal Academy of Dance の Pre-primary の楽譜及び指導用 DVD を分析し、舞踊練習曲における子どもの動きと指導法から、音楽の理解のための身体的経験や、指導法の要点を見出した。特に西洋の調性的な音楽を鑑賞する際の音楽活動や身体表現活動、3/4、6/8 拍子などの理解に役立つ知見を得ることができた。（pp.23～30） **【関連授業科目：音楽Ⅰ、音楽Ⅱ、初等音楽科教育法、児童教育基礎セミナーⅡ】**
３．The Development of Lesson Plans To Enable Diversity and Collaboration (II) Focusing on Ways to Elicit Unique Modes of Expression of Each Student	共	平成 31 年 3 月	THE ANNALS OF EDUCATIONAL RESEARCH〈Vol.46〉 Hiroshima Univercity （1 頁）	多様性と協働が保障される授業では、子どもたちの学習過程はどのようなプロセスをたどるのか、授業研究により考察した。 ユニバーサルデザインの原則の 3、5、6、7 の視点から楽器の教材･教具の選択について述べる部分を担当した。 Nozomu Takahashi, Sachiko Enjoji, Takeshi Chikurinji, Atsuko Gondo, Daisuke Terauchi Naomi Moriyasu, Hiroshi Nagayama, Rintaro Fukuda, Yuki Yoshizaki **【関連授業科目：保育内容（表現Ⅰ）】**
（教育実践記録等） 特記事項なし				

（その他） １.広島県立教育センター研究指導助言		平成 31 年 1 月	広島県立教育センター研究報告所員の研究	広島県立教育センター平成 30 年度個人研究・報告型の企画部指導主事の研究指導者として助言を行った。（官学連携）

人間生活学部　児童教育学科　　村上　智子

著書､学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） １．保育原理	共	平成 31 年 3 月	渓水社（136 頁）	保育の質を捉える 6 つの側面の一つである「過程の質」を向上させるためには、保育者は省察的実践者でなければならない。保育者の資質向上のために研修を行うが、その際に用いられる記録の方法、研修の形態や手法はさまざまある。特に、保育の過程を記録する際に近年は写真やビデオを用いることもあるが、保育記録の基本はエピソード記録である。エピソード記録の書き方を保育場面の捉え方（視点）と記録と考察の考え方を記入例ともとに載せている。（A4，pp.111～115） 担当：第 11 章 現代における保育の現状と課題の第 3 節 保育の質の向上と保育者の研修の必要性、第 4 節 保育を観察・記録する方法 著者：西川ひろ子、山田修三、中原大介、村上智子、他 12 名 **【関連授業科目：保育内容総論、保育内容】**
（学術論文等） 特記事項なし				
（教育実践記録等） 特記事項なし				
（その他） 特記事項なし				

人間生活学部　児童教育学科　　大橋　隆広

著書､学術論文等の名称	単著共著の別	発行年月	出版社又は発行雑誌等の名称	概　要
（著書） 特記事項なし				
（学術論文等） １.「総合的な学習の時間の変遷	単	平成 31 年 3 月	広島女学院大学	「総合学習」の変遷について、学習指導要領の内容分析を基本としながらも、その当時の「学力」をめ

－「学力論」との関係から－」			人間生活学部紀要 第６号 （10 頁）	ぐる社会的な議論を適宜参照しながら、分析を行った。「学力低下」をもたらすものとして総合学習は当初批判的に受け止められる節もあり、総合学習はそれらの批判に応える形で自らを定位してきたこと、及び 近年では「確かな学力」の向上に十分寄与するものとして自らを定位していることが明らかになった。（pp.59～68） **【関連授業科目：特別活動論、教育課程論】**
（教育実践記録等） 特記事項なし				
（その他） 特記事項なし				